

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

大正五稜度

秋田縣水產試驗場事業報告

秋田縣水產試驗場

始



正誤表

頁	行	誤	正
四	終リカラ四行目	六日ニ入りテ	六月ニ入りテ
一一	終リノ行	探檢	探檢
一三	八行目	吉子川	子吉川
二七	備考欄	直子ニ揚網	直子ニ揚網
三一	終リカラ一、二行目	甲機乙機	甲機乙機
三二	一、二、三行目	同上	同上
三五	五行目	沸騰點	沸騰後
三五	十七行目	外某箱	某外箱
四一	比較表終カラ二行目	三六	三六
四二	三行目	訴上	訴上
四五	終リカラ三行目	〇、一五%	〇、一五%
四六	八行目	三十五日	三十五日間
五九	七行目	種類	種類
五九	終リカラ二行目	僅少	僅少
五九	終リノ行	左記	左記
六一	同	六萬六千二百尾	六萬六千二百尾
六一	終リカラ九行目	加藤繁藏	加藤繁藏
六四	五行目	午後	午後
六九	三行目	漁獲金額	漁獲金額
六九	七行目	時價	時價

14.24-81

### 緒言

當場ニテ年々施行セシ試験及ヒ調査ノ事項ハ成ル  
 べく迅速ニ報告シ當業者ノ注意ト相俟ツテ斯業改  
 善ニ資センタメ大正五年度ノ終了ト同時ニ同年度  
 ニ於ケル漁撈製造養殖ノ各試験ノ經過成績ト實地  
 調査セシ本縣重要漁業タル大羽鱈漁及ヒ大正五年  
 一月ヨリ十二月ニ至ル海面魚種別漁獲統計ヲ蒐録  
 シ以テ本報告ヲ刊行ス

大正六年六月

秋田縣水産試験場

大正  
 6. 7. 12  
 内交

大正五年度秋田縣水產試驗場事業報告

目次

漁撈試驗

一、鱈鯖旋網漁業……………一

    (イ)試驗ノ目的……………一

    (ロ)漁具ノ構成……………一

    (ハ)試驗ノ經過……………四

    (ニ)結果……………五

    (ホ)漁業日誌……………五

        漁具ノ構成圖……………

二、鯖流網漁業……………九

    (イ)試驗ノ概況……………九

    (ロ)漁業日誌……………九

三、打瀬網漁業……………一一



11

- (イ) 試験ノ目的..... 一一
- (ロ) 縦曳作業..... 一二
- (ハ) 漁場..... 一二
  - 一、南部漁場 二、中央漁場 三、北部漁場
- 打瀬網漁場圖
- (ニ) 漁期..... 一四
- (ホ) 漁獲物ノ種類ト價格..... 一四
- (ヘ) 漁業日誌..... 一五
- (ト) 副漁具使用..... 三一
- 四、漁船設計..... 三三

**製造試験**

- 一、白魚製造..... 三四
  - (イ) 試験ノ目的..... 三四
  - (ロ) 白魚罐詰..... 三四
  - (ハ) 白魚煮乾..... 三六

**養殖試験**

- 一、鮭人工孵化..... 三九
  - (イ) 親魚捕獲及採卵狀況..... 四〇
  - (ロ) 育養經過..... 四二
    - 一、水量 二、水温 三、孵化浮游 四、投餌 五、減耗數 六、放流
- 鮭人工孚化期氣象表
- 二、姫鱒移殖..... 四五
  - 甲一ノ目瀉孚化場..... 四五
    - (イ) 卵運搬..... 四五
    - (ロ) 育養經過..... 四五
    - (ハ) 放養..... 四七
    - (ニ) 捕獲..... 四七
    - 第一回捕獲..... 四七

13

第二回捕獲	四八
乙、栗山池孚化場	四九
(1) 卵運搬	四九
(口) 育養經過及放養	四九
(ハ) 捕獲	四九
孚化育養經過一覽表	
孚化期中氣象表	
三、虹鱖採卵孚化	五一
(1) 親魚	五二
(口) 採卵	五二
(ハ) 孚化裝置	五三
(ニ) 孚化日數	五四
(ホ) 減耗數卜卵運搬	五四
(ヘ) 孚化率	五四
四、鯉兒配布	五四

(1) 親魚飼育	五五
(口) 採卵及孵化	五五
(ハ) 魚兒飼育	五六
(ニ) 鯉兒配布規程	五七
(ホ) 配布所箇	五九
五、鰻兒移殖	六二
講習講話	
調查	
一、大羽鰻漁業調查	六九
二、養漁適地調查	八三
統計	
大正五年度漁獲高	九七

# 大正五年度秋田縣水產試驗場事業報告

## 漁撈試驗

### 一、鱈鯖旋網漁業

#### (イ) 試驗ノ目的

本縣沖合ニ春期來游スル大鱈ハ明治四十三年度ヨリ流網漁業試驗ヲ開始シ爾來年々頗ル好成績ヲ舉ゲ本年度ニ於テハ縣下三百四十餘艘ノ出漁船アルニ至リ其漁獲高拾貳萬圓ヲ計上スルニ至リ尙逐年出漁船ノ増加セントスルハ最モ喜ブヘキ現象ナリ又大鱈ノ漁期將ニ盡ントスル頃引續キ廻游スル大鱈ハ大正二年度ヨリ同ジク流網漁業ヲ以テ試驗シ年々相當ノ成績ヲ舉ゲ目下尙試驗繼續中ニ存スレドモ其結果ニ徴シ既ニ縣下ヲ通シテ三十餘艘ノ出漁船アルニ至ル此等大鱈又ハ大鱈流網漁業ハ本縣重要漁業ノ主タルモノニ進歩シタレトモ共ニ何レモ夜間ノ操業ニシテ晝間此等魚族ノ厚群浮上シテ俗ニ「いろ」トナルモ之ヲ捕獲スベキ漁具一モナキハ遺憾トスル處ニシテ大鱈及大鱈ノ本縣沖合ニ群來スルハ四月下旬ヨリ七月下旬頃迄ナルハ流網漁業ニ於テ漁期確明ナルヲ以テ此期間ニ於テ鱈鯖ノ厚群ヲ漁獲スル目的ニヨリ本試驗ヲ開始スルコト、セリ

#### (ロ) 漁具ノ構成

全 漁具ノ重要寸法  
長 浮子方 二百尋 沈子方 二百十尋

魚取部	同	二十尋	同	二十二尋
袖網部	一	同	同	同
二	同	四十尋	同	四十二尋
三	同	五十尋	同	五十二尋

但袖網部ハ片網ノ最長ナリ

魚取部

網地 綿糸三號一寸目百掛 横目一反ノ長サ十五間切十五反二丈 縦目五間切十五反

立揚 綿糸三號一寸目十掛 横目長サ三十間

沈子方縁網 立揚ト同斷

縫縁網 綿糸三號一寸目十掛 縦目長サ三十六間二本

袖網部

兩袖網共ニ其構造迄同斷ナルヲ以テ左ニ一翼ヲ記ス

一 網地 綿糸二號一寸二分目百掛 一反ノ長サ十五間切ノモノ魚取部側ニ十五反他ハ十三反

ニテ總テ四丈トス

立揚 綿糸三號一寸二分目十掛 横目長サ六十間

沈子方縁網 綿糸三號一寸二分目百掛 縦目一反ノ長サ四尺五寸切二十五反

縫縁網 魚取部ト同斷

二番

立揚 沈子方縁網 綿糸二號一寸二分目百掛 横目一反ノ長サ十五間切ノモノ奥ハ十三反次ハ十四反三丈 手元ハ十二反トシ總テ五丈トス

一番ト同斷

一番ト同斷ニテ三十二反

綿糸三號一寸五分目三十掛 縦目長サ二十八間

魚取部ト同斷ニテ長サ三十一間一本

桐製丸形長サ四寸徑四寸ノモノヲ六寸隔テニ結付シ總數百個

桐製扁形長サ八寸幅中央部三寸厚サ一寸六分ノモノヲ八寸隔テニ結付シ總數二百八十個

棕梠製徑三分ノモノ二條ヲ用ヒ魚取部ハ長サ二十間一番ハ四十間二番ハ五十間トス

綿糸十五號ヲ用フ

綿糸十號ヲ用フ

鉛製圓筒形一個ノ重量二十五匁ノモノヲ魚取部ニハ附セズシテ袖網部ニハ一間ニ四個宛ヲ配置シ總數七百五十二個重量十八貫八百匁

南京麻八枚糸二本ヲ用ヒ總長二百十間

「マニラロープ」徑三分一本ヲ用ヒ總長二百十間

麻製徑二分長サ二尺ノモノヲ三條ニ折返シテ長サ五寸トシ一尺隔テニ一本宛結付ス

立揚 沈子方縁網 廣目網 縫縁網 浮子 魚取部 袖網部

浮子網

浮子結ヒ糸

籠糸

沈子

沈子方縁網

沈子網

蜘蛛手



- 環 鐵製三分九亞鉛鍍金内徑二寸一個ノ重量三十斤ニシテ總數三十二個
- 環 麻製徑三分長五尺ノモノヲ五間毎ニ折返シテ結付ス
- 環 「マニラロープ」徑六分一條ノ長サ百二十間ノモノヲ左右三本トス
- 燃 鉄製鉛鍍金ノモノヲ魚取部ノ袖網縫合部ヨリ内方三間ノ所ニ付ス
- 手 「マニラロープ」徑四分一條ノ長サ二十五間ノモノ三本ヲ用フ
- 縮 魚取部ハ五割トス
- 染 料 「カツチ」ヲ用フ

(ハ) 試験ノ經過

本年度ハ事業ヲ變更シ豫備試驗的ニ本漁ヲ開始シタルタメ設備充分ナラズ使用ノ漁船ハ明治三十八年製造ニ係ル本場附屬試驗船第一第二ノ海幸丸二艘及船長五尋三尺ノ借入レ手船ヲ用ヒ漁夫ハ一部千葉縣下ヨリ雇入シ他ハ全部本縣漁夫ヲ使用セリ試驗海區ハ本場所在地ナル土崎港ヲ根據トシテ南秋田、河邊、由利ノ三郡ニ亘ル沿岸一哩ヨリ八哩位迄ノ沖合ヲ主ナル漁場トシテ試験ヲ遂行セリ當始五月上旬出船スベキ豫定ナリシモ出船準備ノ取後レタル爲メ漸ク五月十三日ヨリ出漁シタルニ本年ノ天候及氣温ハ例年ト大差ナク海況ハ水温、比重、水色等ハ差シタル異例ヲ認メズト雖モ潮流方向ハ例年北方又ハ北西方ノ流向ヲ常トスレドモ本年ハ殊ニ五月中ハ南流多ク加フルニ流速急激ニシテ漁網使用上尠ナカラズ不便ヲ感ゼシメタリ六日ニ入りテヨリハ流向及流速順調トナリシモ水色著シク惡變シ自然魚群ヲ沖合ニ去ラシメタリ魚群ノ回游狀態ハ鯧ハ男鹿半嶋以南ノ海區ニ於テハ例年ヨリ稍厚キ魚群來游セシ如ク流網ニ於テハ豐漁ナリシモ靜海ニシテ鯧群ノ浮上スル好適ノ日一回モナク從テ例年ノ如キ厚群ノ色トナリシ事ヲ認メズシテ僅ニ漁期中二回ノ小群ヲ漁獲セシニ過キズ鯧ハ漁期中常ニ沿岸海水濁色ヲ呈セシ爲メ例年ノ如ク沿岸ニ來游セズシテ沖合遠ク群集シ常ニ漁具使用上不便ナラシメ漁具使用回数著シク減殺シタリ而シテ七月一日魚群調査ノ爲メ松ヶ崎沖合二十哩前後ニ出船セシニ翌二日未明ヨリ俄ニ東南風ノ大暴風雨トナリ直ニ避難ノ際兩船途ニ其ノ連絡ヲ失シ第一海幸丸ハ午前八時頃土崎河口北方約一哩ニ來リシ際俄然激烈ナル南風ニ風位迴轉シ死力ヲ盡シテ船體破壞セラレシモ乗組員及船具並ニ漁具ハ無事ナルヲ得タリ而シテ新造後十數年ヲ經タル古船ナリシテ以テ波浪ノ爲メ船體破壞セラレシモ乗組員及船具並ニ漁具ハ無事ナルヲ得タリ而シテ第二海幸丸ハ避難ニ多數ノ時間ヲ要シ漸ク午前八時半頃南秋田郡戸賀村加茂ニ避難シ直ニ船體ヲ陸揚シ全ク無事ナルヲ得タリ斯クノ如ク船體難破ノタメ止ムヲ得ズ漁期中途ナル七月四日日本試驗ヲ終了スルニ至レリ此期間五十三日間ノ内漁業日數十八日間時化及漁具修繕等ニテ休漁シタル日數三十五日間ニシテ鯧二萬八千五百二十五尾鯧八十五尾其他雜魚ヲ漁獲シタルニ過キズ

(ニ) 結果

本期試驗ニ使用セシ漁船ハ適當ナル漁船ナキヲ以テ本場附屬試驗船第一、第二海幸丸ヲ使用シタルニ元來「やんのう」形ナルヲ以テ縱横上非常ニ手重クシテ輕快ナラズ網船一隻八人宛ノ漁夫ニテハ敏活ナル行動ヲ欠キ目前ニ魚群ヲ認ムルモ屢々通逸セシメタル主因ハ全ク漁船ノ不完全ナルニヨル而シテ大鯧ノ漁期中夜間焚入又ハ焚入撒餌ヲ行ヒシモ小鯧ノ如ク集魚セズ之レ畢竟大鯧ノ産卵期ナルカ爲メナランカ漁具ハ揚網式ニ構成試用シタルニ稍網丈低カリシト網ノ繰リ揚クル際手元ヨリ魚群ノ通逸スルモノ多キカ如キヲ以テ巾着網式ニ改構スルヲ良シトスルガ如ク本試驗ハ明年度ニ繼續施行セントス

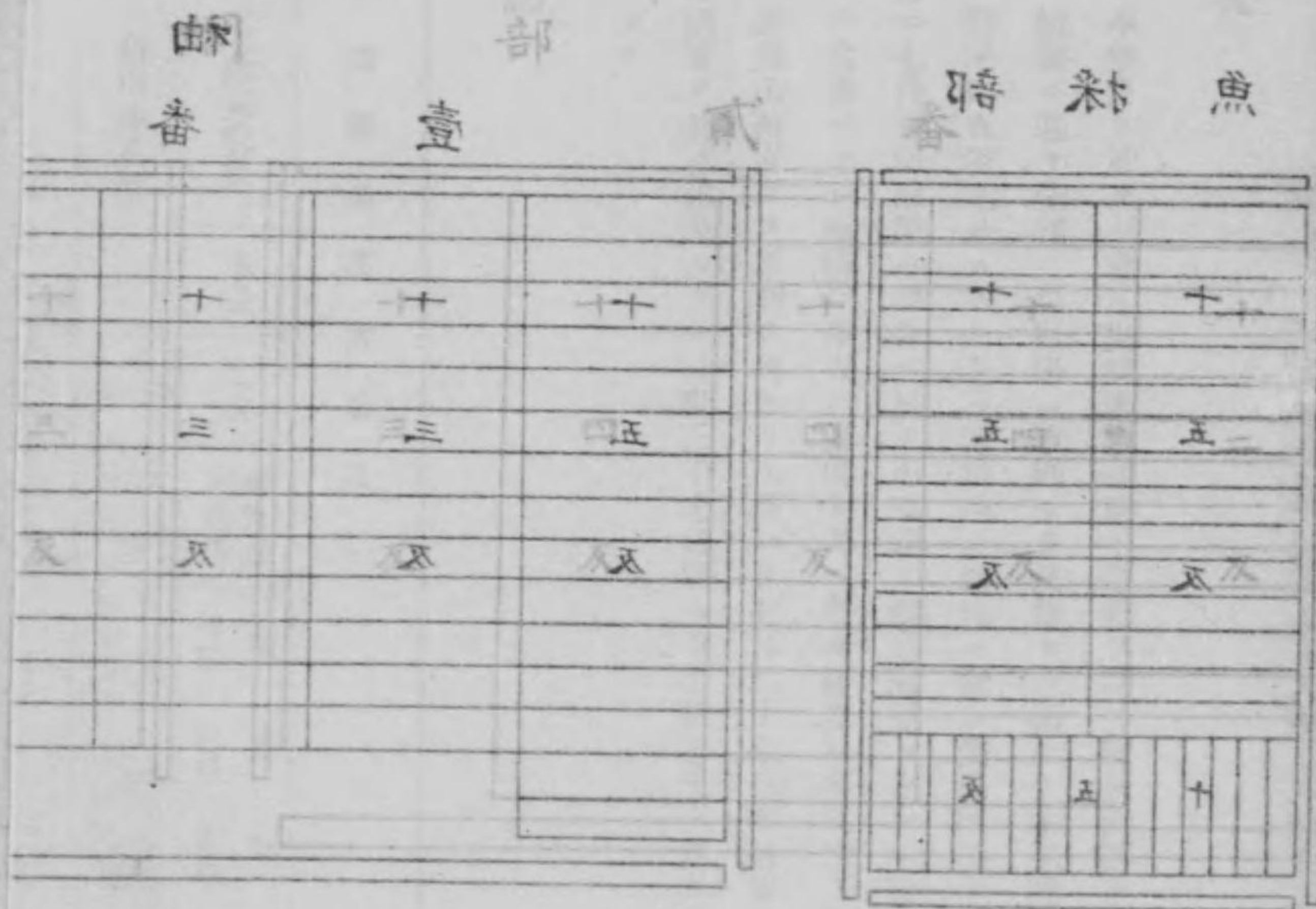
(木) 漁業日誌

同廿九日	同卅一日	六月一日	同十八日	同十九日	同廿三日	同三十日	七月一日	同二日	同三日	同四日
C.10	Q.10	F.0	C	F	C	C	F	R	C	C
S	N	S	SW	N	SE	NE	N	S	NW	SE
2	1	2	1	1	1	1	1	6	2	2
新屋沖	土崎沖	中野沖	新屋沖	松ヶ崎沖	新屋濱	芦川沖	松ヶ崎沖			
15.5	16	15.5	21	20.5	21.5	21.5	22			
1.0236	1.0227	1.0221	1.02481	1.02217	1.02342	1.02444	1.02405			
NW	N	S		NW	同	NE	NW			
緩	急	急		緩	緩	緩最	緩最			
	イワシ		ブリ	ブサバ	マダロ					
	三、二五、四五〇		六三、九九〇	八五、四、二五〇	一、五六〇					
					六〇〇					
小鯧ノ群ヲ認ム										
未明ハ大時化トナリ第一	海幸ハ土難破シ第一海	北幸ハ午八時陸揚ス	幸丸ハ午前八時陸揚ス	茂ニ避難シ船体ヲ陸揚ス	第二海幸丸ハ午後四時加	茂出帆午後八時椿ニ假泊	第二海幸丸ハ午後四時土	崎港ニ廻航シ日本試験	ヲ終了ス	

月日	五月十三日	同十四日	同十五日	同十六日	同二十日	同廿一日	同廿二日	同廿四日	同廿七日	同廿八日
天候	F.5	F.0	同	同	C.10	F.6	C.10	F.0	C.10	F.0
風力	W 1	同	同	NW 3	N 2		W 2	SW 1		
漁場位置	桂根沖	瀧ノ下沖	羽川沖	新屋沖	同	同	長濱沖	同	瀧ノ下沖	羽川沖
水温	12	同	14	14.5	13.5	14.5	14	13.5	14.7	15
比重	1.0225	1.0220	1.0198	1.0219	1.0217	1.0219	1.0228	1.0237	1.0234	1.0230
潮流方向	SE 急最	同	同	同	SE 同	S 急	N 急	SW 緩最	NE 急	S 緩
種類			イワシ							
獲物			六、四〇〇、二、八〇〇							
價格										
摘	本日ヨリ本試験ヲ開始ス	小鯧ノ小群ヲ認ム		夜間中村沖ニ假泊ス	夜間焚入セシモ潮流急ナルガ爲メ不明	夜間焚入セシモ集魚セズ	撤餌セシモ集魚セズ	撤餌セシモ集魚セズ	夕方小鯧ヲ認ム	焚入撤餌セシモ集魚セズ

鯧鮪旋網漁業試験日誌

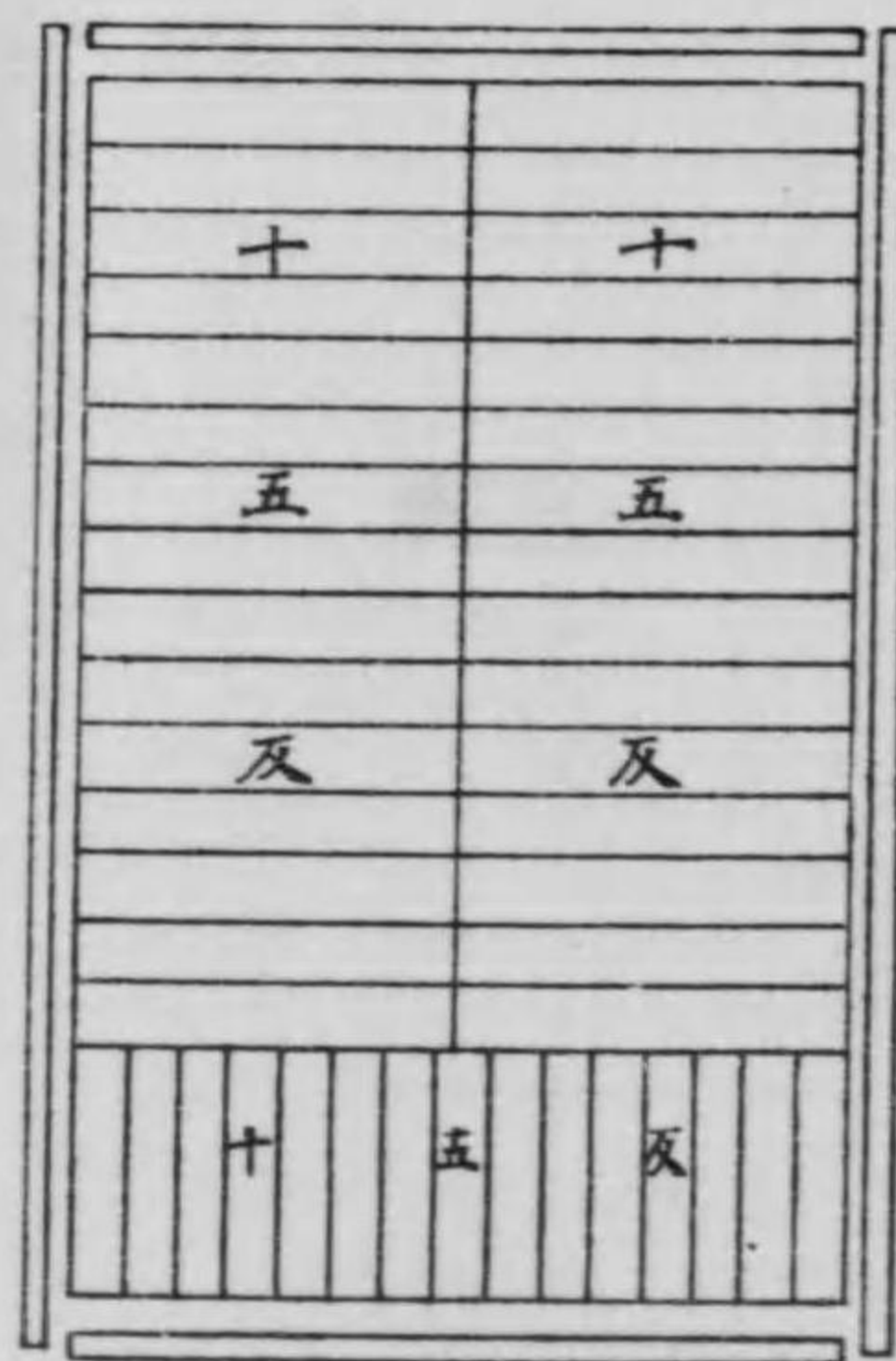
網配置圖



計	試驗期間五十三日間	漁業日數 十八日
		時化及漁具修繕等
休漁日數 三十五日		
イワシ	三八、五五	
サバ	八五	
マグロ	一七	
	六、四五〇	

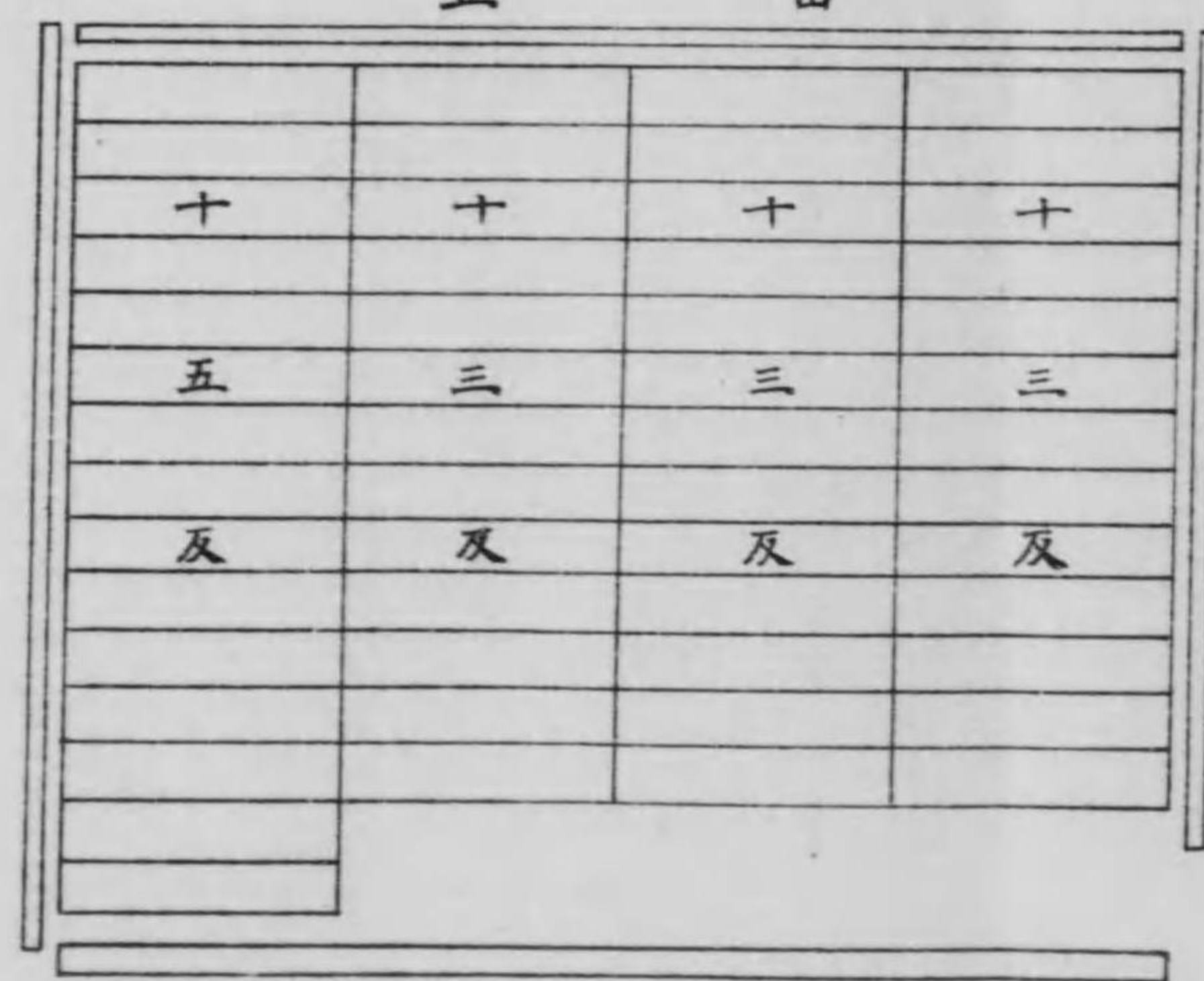
# 網地配置圖

魚採部

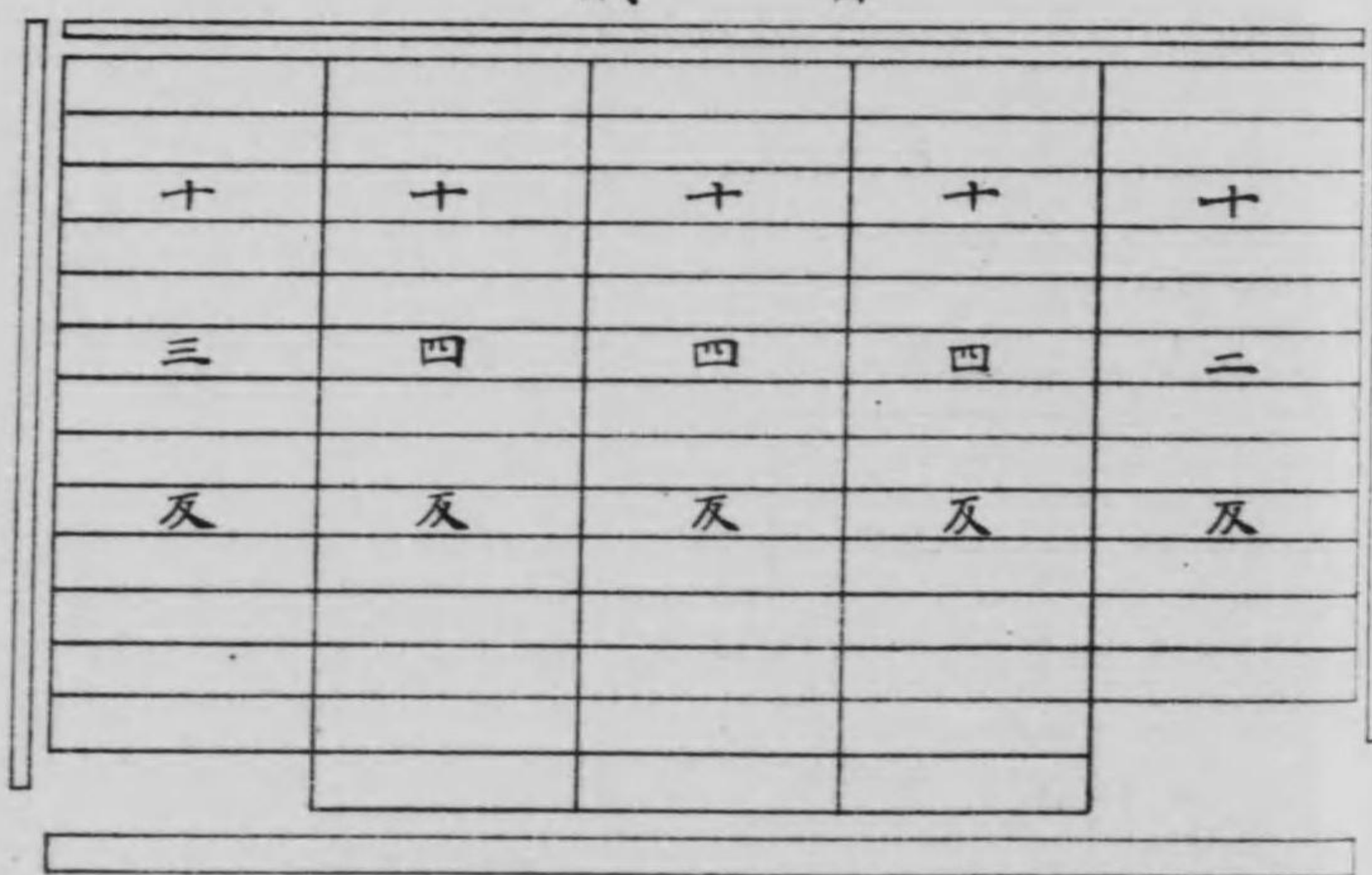


袖網部

壹番



貳番



二、鯖流網漁業

(イ) 試験ノ概況

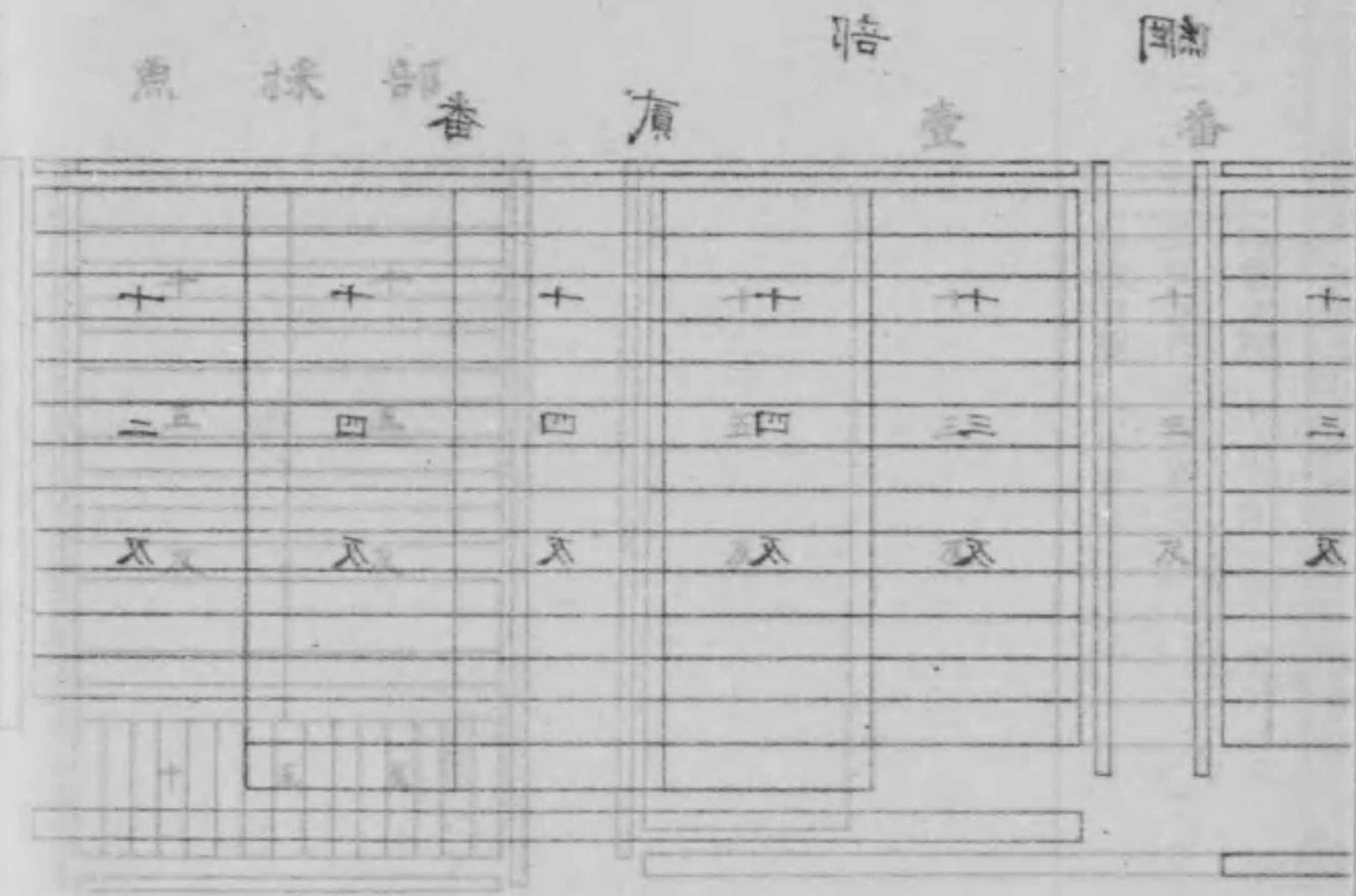
本試験ハ前年度ヨリ繼續施行シ本年度ニ於テハ常ニ旋網漁業試験ト連絡ヲ採リ南秋田郡七崎港ヲ根據地トシテ六月三日ヨリ開始シ漁具ハ前年度試験ノ結果ニ基キ全部二百目掛ニ改構シテ使用セリ而シテ本期間ニ於ケル海況ハ潮流及水温比重等ハ大差ナキモ水色六月中ハ沿岸四五哩七月ヨリハ七八哩以內ノ沿岸ハ常ニ濁色ヲ呈シ爲メニ鯖群沿岸ニ來遊セズシテ常ニ遠ク沖合ニノミ群集シ殊ニ七月中旬以降ハ沖合ニ於テ小鰻群ニ鯖群附隨シ之レニ鮫ノ追蹤スルアリテ爲メニ鯖ノ罹網セシモノヲ鮫ノ爲メニ著シク食害セラレ漁網ニ多大ノ損傷ヲ與ヘ之カ修理ニ多日數ヲ要シタリ斯ノ如ク鯖群ヲ認ムル際ハ必ス鮫ノ追及スルアリテ漁業上尠カラス不利ヲ與ヘタリ而シテ七月二十七日日本試験ヲ終了ス此期間五十五日間ノ内出入漁回数十八回時化及漁具修繕等ノ爲メ休漁シタル日數三十七日間ニシテ鯖七千三百五十尾其他雜魚ヲ漁獲シ流網漁業トシテハ相當ノ好成績ヲ收メタリ

(ロ) 漁業日誌

鯖流網漁業試験日誌

六月三日	月・日	F	天候	SW	風力位	羽川沖八哩	漁場位置	16	水温	1.02370	比重	NW	潮流方向 流速	急	種類	獲物	数量	價格	摘要
					2										サマ グロバ		五 二、二〇〇	一、四二〇	本日ヨリ本試験ヲ開始ス

大網置圖



同 三十日	同 廿三日	同 十九日	同 十八日	同 十四日	同 十三日	同 十二日	同 十日	同 九日	同 八日	同 五日	同 四日
同	C	F	同	同	同	C	同	同	同	同	同
NE	SE	N	SW	N	W	NW	NE	NW	SW		S
1	1	1	1	1	2	2	1	1	1		1
芦川沖十湊	新屋濱	松ヶ崎沖六湊	新屋沖三湊	親川沖六湊	本莊沖九湊	羽川沖七湊	松ヶ崎沖八湊	本莊沖七湊	上新屋沖四湊	雪川沖五湊	勝手沖八湊
21.5	21.5	20.5	21	19.5	21	19	19.5	20	18	18.5	16.5
1.02444	1.02342	1.02217	1.02481	1.02396	1.02888	1.02888	1.02457	1.02507	1.02360	1.02250	1.02331
NE	同	NW		NW	同	S	同	同	N	NW	N
緩最	同	緩		緩最	急	同	緩	緩最	緩	急	急
	ブリ	サバ	マグロヒ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ	サバ
	一九三、八〇〇	五七〇、二八、五〇〇	一一、三〇〇	三九八、一五、九二〇	三七〇、四、〇六〇	四七〇、二八、八〇〇	六〇〇、二四、〇〇〇	二、三〇四、九、一六〇	四〇〇、二、一〇〇	一、〇〇七、五〇、三、五〇〇	五九〇、二、四、二〇〇

三、打瀬網漁業

(1) 試験ノ目的

計 試験期間五十五日間 出漁回数十八回 時化及漁具修繕等 休漁日数三十七日	同 廿六日	同 十九日	同 十二日	同 十一日	七月一日
	同	同	同	同	F
	SE	NW	同	同	N
	2	2	3	3	1
	金浦沖七湊	出戸沖八湊	芦川沖八湊	平澤沖七湊	松ヶ崎沖十 八湊
	25	23.5	22	22.5	22
1.02534	1.02292	1.02054	1.02399	1.02405	
同急	同急	同急最大	同急最大	NW	
	大鯖	サバ	サバ	サバ	同
カブタ ツオリ	マダ グロ	サバ	サバ	サバ	
三六	三三、九〇〇	三八五、一、五五〇	三〇一、五〇〇	五八三、六八〇	
	一、四〇〇				
	翌二十七日日本試験ヲ終了				翌二日未明ヨリ俄ニ大時 化トナリ歸航ノ途中土崎 河口北方約一湊ノ所ニ濱 揚グセシモ無難

本試験ハ前年度ヨリノ繼續事業ニシテ其成績ニ就キテハ同年度ニ於テ稍々良好ナルヲ認メ本縣海洋ニ對シ適種ノ漁業タルベキ見込ナルモ未ダ全ク縣下全沿岸ノ地先ニ亘リ其魚族ニ對スル漁期漁場等ヲ審カニセザルヲ以テ更ラニ本年度ニアリテハ試験ハ歩武ヲ進メ及フダケ縣下各地ノ沖合ノ漁場探檢ト併セテ經濟上ノ試験ヲ施行セリ而シテ是レガ試験ニ使用

セル漁船ハ素ト此種ノ漁船ニ非ラザルヲ以テ操業上ノ不便ハ免レザルモ發動機補助機關付漁船ナルヲ以テ微風若シクバ逆風ニ際シテモ縦曳即チ機力ニ依リ操業セシタメ夏季微風時期ニアリテモ相當出漁操業ナスコトヲ得タリ尙ホ前年度ノ經驗ニ依レバ十二月中旬以降翌年三月中旬ニ至ル約三ヶ月ノ冬季間ハ海上時化ノ日子極メテ多ク天候ノ變化頗ル急劇ナルノミナラズ加フルニ縣下沿岸ヲ通シテ避難ノ漁港ニ乏シキヲ以テ到底充分出漁試驗ハ不可能ナルヲ以テ之レヲ實際ニ徵シ本年度ハ十二月廿日ヲ以テ試驗ヲ切上ケタリ

(口) 縦 曳 作 業

試驗施行中全ク微風タモナキ時若シクハ逆風ニ際セバ己ムナク機力ヲ用ヒ漁獲ノ能率ヲ増加セシメタリ、此方法ハ普通投網ト同様ニシテ左舷ヨリ投網シ其際推進機ニ網ノ纏絡セサル様注意シツ、曳網ヲ舳部ヨリ射出シ緊張シ所要ノ長サニ達スルバ豫メ裝置セル兩舷ノ「遣リ出シ」ニヨリ支エシメ横曳ト同一速度ヲ以テ引曳ス兩舷ノ「遣リ出シ」ハ舳外各四尋ヲ出シ以テ兩袖端ニ付セル開展器ニ依リ網口ノ開展ヲ援ケシム其初メ網ノ開展ヲ一ニ該開展器ニ俟チ曳網ヲ舳部ノ一箇所ト引曳セルニ縦曳用トシテハ過少ニシテ(器ハ高サ一尺五寸幅二尺七寸網ハ浮子桁二十六尋)網ノ抵抗多ク開口不充分ノ感アリシガ兩舷ヨリ「遣リ出シ」ヲ設ケ漸ク其缺點ヲ補ヒタルガ如キモ今日迄ノ經驗ニ依レバ該作業ハ横曳(即チ普通ノ打瀬)ニ比シ漁獲高ノ劣レル傾向アルハ未ダ網ノ開口横曳ノ際ニ比シ狭キカ或ハ動力ニ依ル音響若シクバ網具ノ震動等ニ依ル結果ナルカ研究中ニ屬ス

(ハ) 漁 場

本縣ノ沿海ハ南北ニ延長シ其間五十餘里ニ亘リ男鹿半嶋及青森山形ノ兩縣々界山本郡岩館村由利郡上濱村ノ一部分ヲ除ク外ハ一帶遠淺ニシテ海底平坦底質砂泥ナルヲ以テ何レノ處ト雖モ打瀬網漁業ニ適セザル事ナシ從テ其試驗出漁ノ區域

自ラ廣汎ニ亘ルヲ以テ本年度ニ於テ右海區ヲ南部中部北部ノ三區ニ分チ各根據地設ケ實地出漁試驗ヲ施行セリ

一、南部漁場 本漁場ハ由利郡上濱村沖合ヨリ同郡本莊町沖合ニ至ル海區ノ假稱ニシテ根據地ヲ金浦港ニ置キ四月及十一月及十二月中旬ニ至ル約二ヶ月半ニ亘リ同沖合二三哩乃至六七哩即チ水深二、三十尋ヨリ五、六十尋ノ處ニ出漁シ時ニ同郡金浦、平澤沖合ノ手繰網漁場ハ九十尋ヨリ百尋内外ノ漁場ニ出漁セルモ潮流風勢等最モ順調ナラザレバ操業頗ル困難ニシテ豫定ノ成績ヲ擧クルコト能ハザリシヲ以テ寧ロ淺所ニ依リ極力漁場ノ探查スルノ得策ナルヲ認メタリ而シテ金浦港ハ早春及秋冬ノ交海上荒天ノ際此種ノ漁船ニアリテハ唯一ノ避難港ニシテ漁獲物ニ於テモ常ニ相當ノ時價ヲ有セリ

二、中部漁場 本漁場ハ由利郡吉子川以北ノ沖合ヨリ男鹿半嶋ノ西端ニ至ル海區ノ假稱ニシテ根據地ハ本場所在地タル土崎港ニ置キ五、六兩月及九、十月ノ約四ヶ月間ニ亘リ由利郡本莊沖合二三哩ヨリ南秋田郡南磯村沖合五六哩即チ二十尋内外ヨリ五六十尋ノ沖合ヲ漁場トセリ而シテ五月初旬ヨリ六月初旬ニアリテ雄物川並ニ子吉川ノ河口三四哩水深二十二三尋以内ノ處ニアリテハ河口ヨリ流出スル蘆芥游泥沈澱セルヲ以テ往々囊網部ヲ是等ノ蘆芥泥土中ニ埋没セラレ該部ヲ損傷スル事アルヲ以テ細心ノ注意ヲ要セリ尙ホ雄物川ノ西北約五六哩ノ海底ノ一部分ハ暗礁多クシテ一般曳網ニ適セズ

三、北部漁場 本漁場ハ男鹿ノ西端ヨリ山本郡岩館村沖合ニ至ル海底ノ假稱ニシテ根據地ヲ能代港ニ置キ盛夏七八兩月ニ亘リ出漁セルモ實際漁場トシテ有望ナルハ山本郡濱口沖合ヨリ東雲村沖合ナリトス而シテ水深二三十尋ヨリ四五十尋内外ノ處ヲ最モ佳良トシ其他男鹿半嶋附近並ニ八森村岩館村沖合ハ水深深キノミナラズ海底所々ニ暗礁存在シテ曳網ニ適セズ尙ホ能代川河口附近ノ沖合ニアリテハ流木ノ流下セルモノアリテ出漁中往々網地ヲ損傷シ爲メニ漁獲物ヲ遺棄セル事アリ

(二) 漁期

魚ノ種類ニヨリ自ラ漁期ヲ異ニスレドモ打瀬網漁業ニアリテハ底魚類全般ヲ漁獲ノ目的トセルヲ以テ冬季荒海ニシテ操業不可能ナルノ際ヲ除ク外ハ周年漁期トシテ出漁シ得ベシ而シテ尙從來ノ試験ニ徴スルニ夜間ノ操業ハ晝間ノ操業ニ比シ常ニ漁獲高多クシテ殊ニ春季並ニ秋季ニ在リテ鯛類ノ如キハ晝間ノ操業ニアリテ僅カニ數尾ノ漁獲ニ過ギザルモ夜間同一漁場ニアリテ十數貫ヲ得ル事珍シカラズ殊ニ淺海即チ水深二三十尋内外ノ漁場ニアリテハ著シク其傾向アリ其他鯉鯽等ノ如キモ晝間ハ夜間漁獲高ノ十分ノ一ニ過キスシテ晝間ノ作業ハ屢殆ンド徒勞ニ歸セルモノ多カリシヲ以テ本年度ニアリテハ天候ノ許ス範圍ニ於テ主トシテ夜間ノ操業ニ從事シ相當ノ成績ヲ見タリ

(ホ) 漁獲物ノ種類ト價格

今季節ニ依リテ漁獲物ヲ分類スルトキハ大体左記ノ如シ

- 春季 (自四月至六月) 鯉、鯽、金頭魚
- 夏季 (自七月至九月) 鯛類、金頭魚、鯉、鯽
- 秋季 (自十月至十一月) 鯛類、鯉、鯽
- 冬季 (自十二月中旬迄) 鯛類、金頭魚

其他鮫、鮫、鱈、甘鯛、小鮫、石首魚、かに等殆ンド周年ヲ通シテ漁獲スルモ其數多カラザルヲ以テ常ニ雜魚トシテ取扱ヘリ而シテ鯛類ノ平均價格ハ十貫弍拾壹圓ニシテ十一月廿二日ノ拾七圓四拾錢ヲ最高トシ六月二十日ノ八圓ヲ最低トシ鯉、鯽類ハ平均五圓ニシテ六月五日ノ五圓五拾錢ヲ最高トシ六月廿四日ノ四圓五拾錢ヲ最低トシ其他鮫、鮫、鱈、甘鯛、小鮫、石首魚等ノ如キ雜魚ハ之レヲ一括トシ其種類ノ良否多寡ニヨリ一定セズ最低貳圓最高拾壹圓ヲ以テ售賣セラレタリ今月別ニ依リテ漁獲成績表ヲ示セバ次ノ如シ

漁獲成績月別表

月別	出漁日數	漁獲數量	漁獲金高
四月	一七日	一三八、七五〇	一〇〇、五六〇
五月	一三日	七七、一九六	四二、一九〇
六月	二一日	二〇一、五八〇	一〇〇、八八〇
七月	一八日	一六一、五〇〇	八八、九二〇
八月	二八日	二三四、二四一	二〇九、七一〇
九月	一五日	一〇一、四一八	一〇八、七九〇
十月	一四日	一三六、一一一	一二七、〇二〇
十一月	一四日	一〇三、九八〇	一〇一、一五〇
十二月	六日	三三、二五〇	五二、二〇〇
總計	一四六日	一、一八八、〇三六	九三二、四二〇

備考 收入ニヨル漁獲高ナルヲ以テ(厘以下切捨)漁業日誌ノ金高ト相違セリ

(ハ) 漁業日誌

打瀬網漁業日誌														
月	日	天候	風力	氣温	水温	比重	水深	潮流方	漁具使用時間	回數	種類	數量	金額	備考



五月六日	五月五日	五月三日	五月二日	四月三十日	四月廿八日	四月廿七日	四月廿六日	四月廿二日	四月十九日
曇	晴	曇	晴	曇	晴	晴	晴	晴	晴
南東、三	南西、三	南西、二	北西、一	南東、一	無	北、三	北西、三	北西、二	南西、二
一七、〇	一七、〇	一六、〇	一六、〇	一三、〇	一四、〇	九、〇	一〇、〇	一〇、〇	一三、〇
一一、五	一〇、五	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇	九、〇	九、五	九、〇	一〇、〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
三尋泥	三尋泥	四尋泥	四尋泥	三尋泥	四尋泥	三尋泥	三尋泥	二尋泥	四尋泥
北東、緩	北西、緩	南西、緩	南西、緩	北西、緩	北西、緩	北西、緩	北西、緩	北、急	北、緩
自午前四時三十分至午後四時三十分	自午前五時三十分至午後六時三十分	自午前四時三十分至午後二時三十分	自午前四時三十分至午後五時三十分	自午前五時三十分至午後六時三十分	自午前四時三十分至午後五時三十分	自午前四時三十分至午後六時三十分	自午前四時三十分至午後五時三十分	自午前六時三十分至午後七時三十分	自午前六時三十分至午後七時三十分
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	一	雜魚
五、〇〇〇	四、〇〇〇	八、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	一	七、〇〇〇
〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	六、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	〇七、〇	一	二、〇〇〇

四月十八日	四月十五日	四月十四日	四月十三日	四月十日	四月九日	四月七日	四月六日	四月五日	四月三日	四月一日
晴	晴	曇	曇	曇	晴	曇	雪	曇	曇	雨
北西、一	北西、三	西、四	南、三	南、二	北東、一	南西、一	西、四	北、三	無	北、二
一四、〇	一〇、〇	一〇、〇	一五、〇	一六、〇	三、〇	六、〇	五、〇	六、〇	二、〇	二、〇
九、五	八、五	九、〇	九、〇	八、五	八、五	九、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
四尋泥	三尋泥	四尋泥	四尋泥	四尋泥	四尋泥	四尋泥	三尋泥	五尋泥	四尋泥	四尋泥
北、緩	北、緩	北、緩	北、最急	北、急	北、急	北、緩	南西、最緩	北西、急	北西、急	北、急
自午前八時三十分至午後九時三十分	自午前七時三十分至午後八時三十分	自午前六時三十分至午後七時三十分	自午前六時三十分至午後五時三十分	自午前六時三十分至午後五時三十分	自午前六時三十分至午後五時三十分	自午前六時三十分至午後五時三十分	自午前六時三十分至午後七時三十分	自午前六時三十分至午後七時三十分	自午前六時三十分至午後七時三十分	自午前六時三十分至午後七時三十分
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一
雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚
一、五〇〇	五、〇〇〇	四、五〇〇	二、一〇〇	一六、〇〇〇	一八、一〇〇	四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇
六、九〇〇	四、六〇〇	三、六〇〇	一〇、〇〇〇	一三、三〇〇	一四、四〇〇	三、一〇〇	八、三〇〇	五、二八〇	一、〇〇〇	四、六〇〇

本日ヨリ大正五年  
度本試験ヲ開始ス

六月十四日	六月十日	六月九日	六月八日	六月六日	六月五日	六月四日	六月三日	六月二日	六月一日
曇	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	曇	晴
北東、二	西、一	北西、一	南東、一	南東、四	南東、一	南、三	南、三	西、三	南、三
二五、〇	二六、〇	二五、〇	三三、五	二六、〇	三三、〇	一九、〇	一九、〇	一八、〇	一八、〇
一九、五	一九、五	一九、〇	一八、〇	—	一八、五	一六、五	一六、〇	一六、〇	一六、六
一、〇三〇	一、〇三五	一、〇三〇	一、〇三〇	一、〇三〇	一、〇三〇	一、〇三〇	一、〇三〇	一、〇三〇	一、〇三〇
三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋
南西、二	北、一	北、一	北、一	—	北、一	北北、一	北、一	北西、一	北西、一
自午後七時三十分 至午前七時三十分	自午後八時五十分 至午前四時五十分	自午後八時五十分 至午前四時三十分	自午後八時五十分 至午前四時三十分	—	自午後八時五十分 至午前四時三十分	自午後八時五十分 至午前四時三十分	自午後八時五十分 至午前四時三十分	自午後八時五十分 至午前四時三十分	自午後八時五十分 至午前四時三十分
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚
七、二〇〇	三、五〇〇	四、一〇〇	五、〇〇〇	九、〇〇〇	一、九〇〇	五、一〇〇	二、五〇〇	九、一〇〇	六、九〇〇
一、一〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、八〇〇	一、四〇〇	一、一〇〇	五、八〇〇	一、七〇〇	二、七〇〇

五月三十日	五月廿九日	五月廿八日	五月廿七日	五月廿三日	五月廿二日	五月二十日	五月十九日	五月十六日
曇	曇	晴	曇	晴	晴	曇	曇	曇
北、三	北東、四	南東、一	南東、二	北、一	南東、三	北東、一	無	東北、一
一八、五	二〇、〇	二〇、〇	一九、〇	一八、〇	一七、〇	一四、〇	一六、〇	一三、〇
一五、五	一五、五	一五、〇	一五、〇	一四、五	一四、〇	一三、五	一三、〇	一三、〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—
三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	六—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	三—尋 砂—尋	八—尋 泥—尋
西、一	北西、一	南、一	北東、一	南西、一	南西、一	南西、一	南西、一	南西、一
自午後四時三十分 至午前四時三十分	自午後六時三十分 至午前六時三十分	自午後六時三十分 至午前六時三十分	自午後六時三十分 至午前六時三十分	自午後六時三十分 至午前六時三十分	自午後六時三十分 至午前六時三十分	自午後六時三十分 至午前六時三十分	自午後六時三十分 至午前六時三十分	自午後八時三十分 至午前八時三十分
二	二	四	三	二	二	二	二	二
雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚
〇、九〇〇	三、五〇〇	二、〇〇〇	四、八〇〇	四、〇〇〇	四、八〇〇	二、〇〇〇	一、九〇〇	二、六〇〇
一、四〇〇	一、三〇〇	一、一〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、一〇〇	〇、七〇〇	一、五〇〇

七月七日	七月六日	七月四日	七月三日	七月一日	六月卅日	六月廿九日	六月廿七日	六月廿六日
雨	曇	曇	曇	晴	曇	曇	曇	曇
南西、一	西、一	南東、二	南東、二	北西、二	南、一	南南東、一	南東、二	南東、二
三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、〇	三、〇	三、〇	三、五
一、〇、五〇	一、〇、五〇	一、〇、五〇	一、〇、五〇	一、〇、三〇	一、〇、三〇	一、〇、三〇	一、〇、三〇	一、〇、三〇
至一尋 泥	至一尋 泥	至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 泥
北西、緩	北、緩	北、緩	北、緩	北、急	北、緩	北東、緩	南南東、急	南、緩
自午後四時三十分 至午後五時十分	自午後五時十分 至午後六時十分	自午後六時十分 至午後七時十分	自午後七時十分 至午後八時十分	自午後七時十分 至午後八時十分	自午後七時十分 至午後八時十分	自午後七時十分 至午後八時十分	自午後七時十分 至午後八時十分	自午後七時十分 至午後八時十分
二	二	二	二	一	四	四	一	二
雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚
九、〇〇〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇	九、〇〇〇	一、七、〇〇〇	二、〇〇〇	六、八、〇〇〇	二、〇〇〇	七、五〇〇
五、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二、〇、〇〇〇	一、九、〇〇〇	三、四、〇〇〇	一、〇〇〇	三、六、〇〇〇

六月廿五日	六月廿三日	六月廿二日	六月十九日	六月十七日	六月十六日	六月十五日
曇	曇	曇	晴	雨	雨	曇
北東、一	北東、一	南、一	北北東、二	南南西、二	北東、二	南東、二
三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	一、九、五	一、九、五	一、九、〇
一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇
至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 砂	至三尋 砂
北、緩	北、緩	北、緩	北、緩	北、緩	北西、緩	西北西、緩
自午後六時三十分 至午後七時十分	自午後六時三十分 至午後七時十分	自午後六時三十分 至午後七時十分	自午後六時三十分 至午後七時十分	自午後六時三十分 至午後七時十分	自午後六時三十分 至午後七時十分	自午後六時三十分 至午後七時十分
四	四	四	三	三	一	三
雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚
九、九〇〇	一、〇、〇〇〇	一、〇、〇〇〇	五、三、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	八、〇〇〇
四、九、〇〇	一、〇、〇〇〇	一、〇、〇〇〇	一、〇、〇〇〇	一、〇、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇

七月廿八日	七月廿九日	七月三十日	八月一日	八月二日	八月三日	八月四日	八月五日	八月六日	八月七日
曇	晴	晴	晴	晴	曇	曇	晴	曇	曇
南東、三	南東、三	南東、三	南東、三	南東、三	南東、三	南東、三	南東、三	南東、三	北、一
二五、〇	二七、〇	二八、〇	二七、〇	二六、〇	二七、〇	二八、〇	二九、〇	二八、〇	二七、五
二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二五、五	二五、五	二六、〇	二六、五	二六、〇	二五、五
一、〇三三	一、〇三四	一、〇四五	一、〇三五	一、〇四四	一、〇四五	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四
砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂
南、二	南、二	南、二	北、二	北、二	西、二	北、二	南、二	南、二	南、二
自午後七時三十分	自午後八時三十分	自午後九時三十分	自午後十時三十分	自午後十一時三十分	自午後十二時三十分	自午後一時三十分	自午後二時三十分	自午後三時三十分	自午後四時三十分
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚
四、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇

七月廿七日	七月廿八日	七月廿九日	七月三十日	七月三十一日	八月一日	八月二日	八月三日	八月四日	八月五日	八月六日	八月七日
曇	曇	晴	晴	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
南、三	南、三	北、四	北、四	南、三	南、三	南、三	南、三	南、三	南、三	南、三	南、三
二五、〇	二五、〇	二四、〇	二四、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇	二五、〇
二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五	二四、五
一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五	一、〇四五
砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂
南、二	南、二	北、二	北、二	南、二	南、二	南、二	南、二	南、二	南、二	南、二	南、二
自午後八時三十分	自午後九時三十分	自午後十時三十分	自午後十一時三十分	自午後十二時三十分	自午後一時三十分	自午後二時三十分	自午後三時三十分	自午後四時三十分	自午後五時三十分	自午後六時三十分	自午後七時三十分
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚	雜魚
三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇

漁獲物無シ

八月三十日	八月廿八日	八月廿七日	八月廿六日	八月廿五日	八月廿四日	八月廿三日	八月廿二日	八月廿一日	八月廿日
晴	晴	曇	曇	晴	曇	曇	晴	晴	曇
西、二	北東、三	北東、二	北東、一	北、三	北東、一	東南東、三	北、一	北、一	北、一
三、〇	二八、〇	二七、〇	二六、〇	二九、〇	二八、〇	二六、〇	二七、五	二七、五	二九、〇
二五、五	二五、五	二五、〇	二五、五	二六、〇	二五、〇	二六、〇	二五、〇	二五、〇	二五、五
一、〇四三	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四九	一、〇四五	一、〇四四	一、〇五一	一、〇四八	一、〇四八	一、〇四四
砂泥	泥	泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥
南西、急	南西、急	南西、急	南西、急	北、緩	南、緩	北、急	北、急	南、緩	南、急
自午後六時三十分至自午後七時三十分	自午後六時十五分至自午後七時十五分	自午後六時十五分至自午後七時十五分	自午後六時十五分至自午後七時十五分	自午後五時三十分至自午後六時三十分	自午後四時三十分至自午後五時三十分	自午後七時三十分至自午後八時三十分	自午後六時三十分至自午後七時三十分	自午後六時三十分至自午後七時三十分	自午後九時四十分至自午後十時四十分
四	二	二	二	二	二	二	三	二	一
雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚
一、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

八月十九日	八月十八日	八月十七日	八月十六日	八月十五日	八月十四日	八月十三日	八月十一日	八月十日	八月九日	八月八日
晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	曇	曇	曇
北、一	北、一	北、一	北四、一	北、一	北東、二	北四、二	南東、四	南、三	南東、二	南東、二
二八、〇	二七、〇	二九、〇	二九、〇	二八、〇	二六、〇	二九、〇	二九、〇	二八、〇	二九、〇	二九、〇
二五、五	二六、〇	二五、五	二六、〇	二五、〇	二五、〇	二五、五	二五、五	二五、〇	二六、〇	二五、五
一、〇四四	一、〇五一	一、〇三四	一、〇四五	一、〇四八	一、〇四四	一、〇五一	一、〇三五	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四
砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥	砂泥
北北西、緩	北、急	南東、急	北東、急	北、緩	北西、急	北西、急	北、緩	北北東、緩	南西、緩	西、緩
自午後八時四十分至自午後九時四十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分	自午後八時三十分至自午後九時三十分
二	二	二	一	二	二	二	一	二	二	二
雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚	雜調小魚
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

漁業從事中  
天候險  
惡トナリシヲ以テ  
午後十二時土時ニ  
歸港投錨ス





(ト) 副漁具使用

前年來試験中ニ係ル打瀬網ニ就キ副漁具トシテ是レガ曳網撈揚ニ關シ省力機ノ必要ヲ認メタルヲ以テ前年度ニ於テ國庫ノ特別補助ヲ得大日本水産會ニ之レガ設計考案ヲ委嘱シ新潟鐵工所ニ製作ヲ命ジ同年度末ニ於テ漸ク竣工ヲ見タルモ之レガ試験ノ機會ナク本年度ニ於テ之レヲ試験船八龍丸ニ据付實地試用セルモ其使用困難ニシテ期待セル好果ヲ得ザリシヲ以テ從來使用セル撈揚器ト比較使用セルニ表記ノ成績ヲ得却テ増力省時機械ノ感アリ而シテ打瀬網漁業ノ如キ作業ニアリテハ省時ヨリ寧ろ省力ヲ主眼トスルヲ以テ本目的ニ依リ考案ヲ要ス今其比較ヲ記セバ左ノ如シ

撈揚機械比較試験表

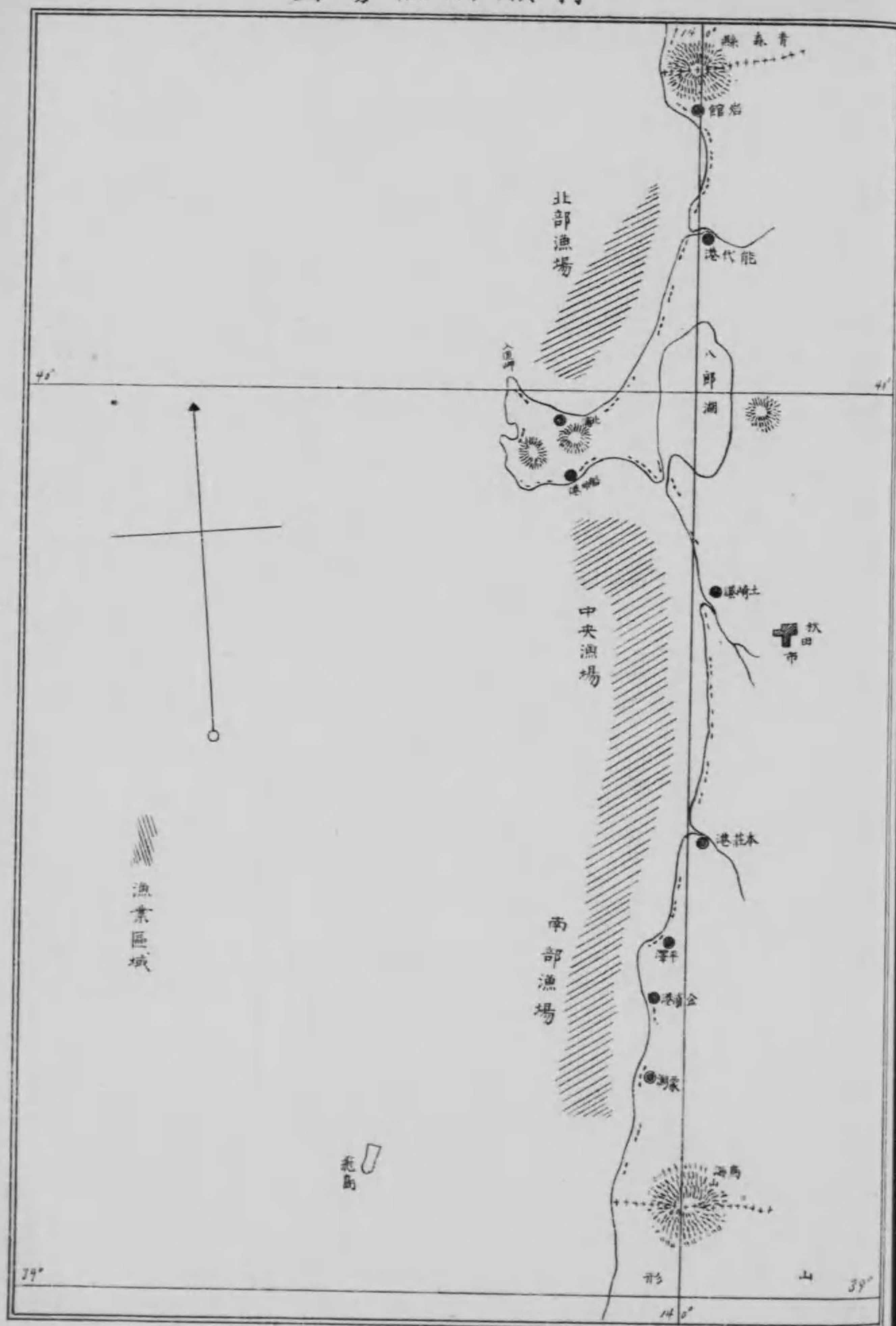
撈揚機械ノ別	人員	網ノ長サ	撈揚時間	水	深
第一回	二人	一〇〇	十九分		四十尋
乙甲	四人	一〇〇	十六分		四十尋

計	試驗期間二百六十四日	出漁日數	漁業日數	漁具船休修繕日數	回航日數	時化及休漁日數
十二月七日	曇	南南四、二	一六、五	一五、〇	一、〇五五	〇
十二月十七日	晴	南、一	八、〇	一五、〇	〇	〇
計		北北東、二	五九、〇七	五九、〇七	九十三日	
		北北、二	一六、三三	一六、三三	六日	
		北北、二	一六、三三	一六、三三	六日	
		北北、二	一六、三三	一六、三三	六日	

十一月十九日	曇	北四、一	一五、〇	一五、〇	一、〇四〇	〇	雜魚	二	三、八六四	
十一月廿一日	曇	南東、三	一四、〇	一六、〇	一、〇三〇	〇	雜魚	一	〇	
十一月廿三日	晴	北北、二	一、〇	一五、〇	一、〇三三	〇	雜魚	二	二、五〇〇	
十一月廿四日	晴	南東、二	一四、〇	一三、五	一、〇四〇	〇	雜魚	二	三、四〇〇	
十一月廿五日	曇	南東、三	一六、〇	一三、五	一、〇三三	〇	雜魚	二	二、二〇〇	
十二月一日	曇	東、一	一七、五	一五、〇	一、〇五五	〇	魚雜	二	一、六〇〇	
十二月四日	晴	南、一	一五、〇	一五、五	一、〇三〇	〇	雜魚	一	〇	
十二月六日	晴	北東、一	二、〇	一四、五	一、〇三三	〇	雜魚	二	七、九〇〇	



打瀬網漁場圖



漁撈部試驗

回数	機	人	時間	距離
第二回	乙	二人	一〇〇	三十七尋
	甲	四人	一〇〇	三十七尋
第三回	乙	二人	一〇〇	二十五尋
	甲	四人	一〇〇	二十五尋
第四回	乙	二人	一〇〇	三十四尋
	甲	四人	一〇〇	三十四尋

備考 甲ハ從來捲揚機、乙ハ水産會捲揚機トス

尙乙機ニツキ試驗ノ結果ヲ綜合スレバ

- 一、高速部ノ溝ハ打瀬網ノ網揚用トシテハ使用不適ナルモ底速部ノ使用スル時ハ前記ノ如ク四人ニテ使用スル事ヲ得
- 二、形態膨大ニシテ狭矮ナル漁船ノ甲板ニアリテハ作業ニ適セズ
- 三、網捲溝ノ位置低キニ失シ網尾ヲ曳クニ不便ナルコト但シ高ケレバ把手ノ回轉ヲ妨クルヲ以テ結局横捲溝ハ不適當ニシテ縦捲溝ニ改ムルコトヲ得策ナリトス
- 四、網捲部溝ノ分離シアルヲ以テ從ツテ網尻ヲ調理スルニ不便ヲ感ジ且ツ溝ノ幅廣ク滑カナルヲ以テ徑五分内外ノ網ハ空廻リスルノ缺點アリ
- 五、網捲中大經(經六七分以上)ノモノハ隨時緩ムル事能ハサルヲ以テ齒車ノ齒止メノ裝置ヲナスニ非ラサレバ逆轉スルノ危険アリ
- 六、機ノ頂部ニ齒車露出シアルヲ以テ危険ナレバ之レヲ被覆スルノ裝置ヲ要ス
- 七、價格高ク一般ノ普及覺束ナキヲ以テ低廉ナル機械タラザルベカラズ即チ大部分ハ木造トシ重要部ノミヲ金屬製トスベシ

以上ノ如クニシテ遂ニ豫定ノ成績ヲ見ル事ヲ得ザリシヲ以テ更ニ充分本機ニツキ改良上ノ研究ヲナシ以テ當初ノ目的ヲ達セントス

### 四、漁船設計

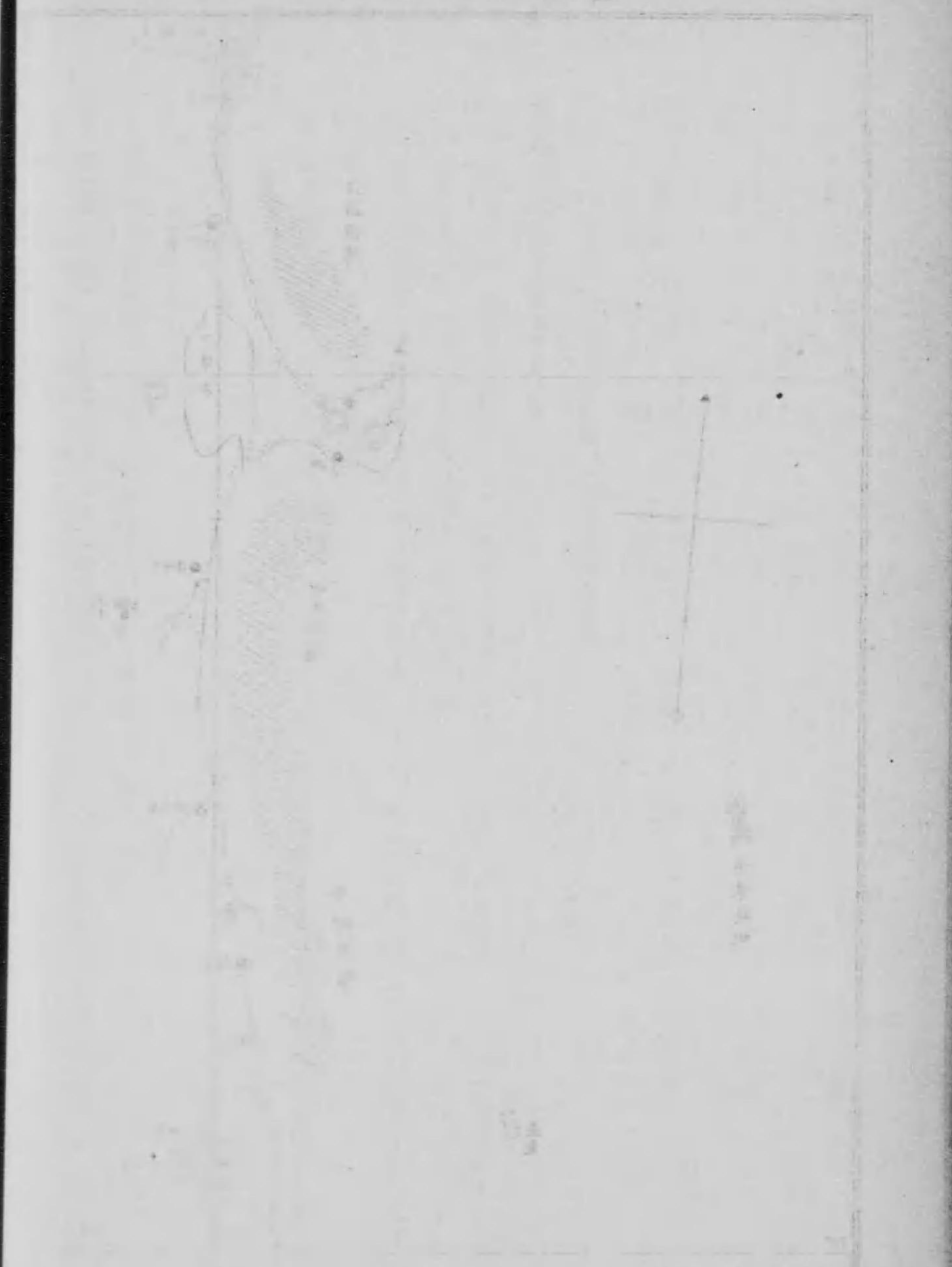
遠洋漁業獎勵法ニヨリ政府ニ漁船新造獎勵金ノ下附ヲ出願シ許可ヲ受ケタル漁船及本年度本縣改良漁船補助金ヲ受ケテ新造セシ漁船ニシテ本場ノ設計及監督ヲナシタルモノ五艘ニシテ内譯ヲ舉グレバ左ノ如シ

政府ノ獎勵ニ依ルモノ

船ノ重要寸法		噸數	住 所	氏 名
長	巾			
五十五尺	十二尺	十五噸	南秋田郡南磯村	菅原千代吉
四十一尺四寸	九尺	七噸	由利郡平澤町	佐藤長次郎

縣ノ獎勵ニ依ルモノ

船ノ重要寸法		住 所	氏 名
長	巾		
四十七尺	七尺二寸	由利郡金浦町	佐藤市松
四十七尺	七尺二寸	同	能藤政吉
四十七尺	七尺二寸	同	小林久平



製 造 試 驗

一、白 魚 製 造

(イ) 試 驗 ノ 目 的

白魚ハ八郎湖産魚類中最モ重要ナル種類ニシテ一ケ年ノ數量約一千石此重量四萬貫目餘ノ漁獲アリ多クハ鮮魚ノ儘縣内各地ニ販賣セラル近時漸ク之ガ煮干、佃煮等ヲ製造シ縣外ニ輸出試賣ヲナスモノアルニ至リタルモ其製法幼稚ニシテ粗品ヲ産シ價格從ツテ低廉ナルヲ以テ白魚ノ眞價ヲ失墜シ優良ナル魚種ヲ輕視スルノ傾向アルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ今白魚ニ對シ適當ナル製法ノ改善ヲ施シ細心注意以テ時代ノ要求ニ應ズル精撰品ヲ産出スルニ至ラバ其價格ヲ向上セシメ販路ヲ擴張スル敢テ至難ノ業ニアラザルベキハ勿論或ハ海外輸出品ヲ産出スルニ至ルベク經濟上當業者ヲ裨益スル事甚大ナルベシト信ジ左ノ製造試驗ヲ開始セリ

(ロ) 白 魚 罐 詰

歐米其他海外市場ノ嗜好ニ適スル水産適種ノ製造物ヲ産出シ之レヲ輸出スルハ極メテ肝要ナルハ論ヲ俟タズ本年度白魚水煮罐詰ニツキ各種ノ製造ヲ試ミタルハ全ク此目的ニ副ハシメンガタメ併セテ民間斯業發達ノ資ニ供センガ爲メニ本試驗ヲ施行セリ然ルニ施行當時ハ漁業時期少シク運レ原料ノ蒐集購入ニ困難ヲ生シ豫定ノ試製ヲナス事能ハザリシヲ以テ明年度適當ノ時期ニ於テ更ニ之レガ試驗ヲ重ネ其ノ成績ヲ確メントス今試製シタル製法ノ一種ニツキ記載スレバ左ノ如シ

一、原料ノ撰別 新鮮ニシテ魚体ノ均一ナル白魚ヲ豫メ用意セル母氏二度ノ鹽水中ニ投入シ浮上スル水藻及塵芥小蝦其

他ノ混雜物ヲ丁寧ニ除去撰別シ更ニ清水ニテ靜カニヨク洗滌シ箆ニ入レ水切ヲナス

一、煮熟法 既ニ水切ヲナシタル原料ノ白魚ヲ沸騰シタル母氏八度ノ鹽水中ニ投入シ金網製叉手ヲ以テ靜カニ適宜ニ攪拌シ上面ニ浮上スル汚物ヲ絶ヘズ取り除キ煮熟スル事約十分間ニシテ掬ヒ揚ケ箆ノ上ニ撒布シ其ノ冷却スルヲ待ツテ罐ニ詰メ(肉量六十匁入トシテ白魚一升ニツキ五罐ヲ製出セリ)母氏二度ノ鹽水ヲ注加密封ス

一、加熱ハ普通釜ヲ用ヒ沸騰點四十分間ニシテ排氣ヲ爲シ沸湯中ニテ尙五十分間殺菌ヲ行ヒ冷却シテ製了ス

一、製品ノ品評 白魚利用ノ目的ニ依リ前記ノ如ク試製ヲナスト共ニ斯業ノ指導獎勵ノ結果ハ民間山本郡鶴川村富岡ニ泉拙匠氏同郡濱口村芦崎ニ伊東豊三郎氏ノ兩工場ノ設立ヲ見ルニ至リタルヲ以テ益々之レカ發達ヲ助長セシタメ東京菊屋商店ニ交渉シ進ンテ見本品ヲ製造シ其結果ニヨリ海外ニ輸出試賣ヲ行フ事トナリタリ而シテ試製品ニツキ輸出先ノ嗜好、販賣ノ見込、評價等菊屋商店ニ於テ品評セシ要旨ハ左ノ如シ

(イ) 外見、罐ハ内嵌ヨリ外嵌罐ヲ可トス罐塗料ノ改善ヲ要ス

(ロ) 内容、肉量液量共ニ可ナリ、魚体完全ニ色澤良好ナリ、魚形稍少ナリ、液ハ清澄ニシテ可ナリ、鹽味稍強キモノ、如シ

(ハ) 販路、充分販賣ノ見込アリ

(ニ) 評價、該製品東京着直段一箱四打八圓五拾錢乃至九圓止リノ價格ナリ

一、海外輸出品ノ製造 前記見本品試製品評ノ結果ニ依リ菊屋商店ノ手ニ依リ海外輸出試賣ヲナス事トナリ伊東、泉ノ兩工場ニテ本場監督ノ下ニ一封度立罐及平罐ノ四打八圓五拾錢乃至九圓五拾錢ヲ輸出シ七月中旬ヲ以テ東京菊屋商店ニ渡シ濠洲ニ輸出シタリシニ同年十二月濠洲シドニ一外某館ヨリノ試賣ノ結果ニヨル品評ヲ得タレバ左ニ其概略ヲ摘録ス

濠洲シドニ一 某外館品評

(イ) 一罐ニハ八オンス詰ニテ白魚六オンス殘餘ハ液ニシテ内容物ノ魚肉及液共不均一ナリ

(ロ) 罐中ノ液ハ不要ナリ(魚肉及溶液トモ目方ニ對シテ稅ヲ支拂フノ不利アリ正味一封度ニシテ課稅即チ肉ハ一罐ニツキ一片半溶液ハ四分ノ三片ノ稅ト決定セリ)

(ハ) 溶液ノ儘ニ魚肉ヲ料理スル時ハ餘リニ鹽分強ク口ニ適セズ

(ニ) 罐材薄シ丈夫ニシテ厚キ罐ヲ用ヒレバ即チ貼紙ハ明瞭ニ清楚ナルモノヲ用ユル事

以上ノ外通商條令ニ關スル件其他ノ注意事項ト共ニ同地市場ニテ販賣サレツ、アルセントジョージ白魚ノ一ボンド平罐ノ製品ヲ送り來リ同製品ニ模造シテ再タビ輸出試賣ヲ希望シ來リタリ而シテ萬一同製品ニ倣フ事ノ難事ナル場合トシテ

一、善良ナル罐ヲ使用スル事

二、貼紙ヲ立派ニスル事

三、魚ヲ善ク煮熟スル事

四、内容ノ目方ヲ均一ニスル事

五、鹽分ヲ少ナクスル事

斯クノ如クセバ濰洲ニ於ケル白魚ノ販路ニ關シテハ敢テ疑ハザル處ニシテ需要アリ云々

以上

即チ濰洲ヨリ送附ノ「ホワイトベイト」ノ製品ハ大正六年二月本場ニ於テ泉工場主、伊東工場主、大川罐詰所主、各工場ノ職長ヲ召キ本場長及主任技手立會ノ上ニ開罐品評シタル結果、依リ明年春季ノ漁期ニ於テ之レカ模倣製品ヲ造リ再輸出試賣ヲナス事ニ決シタリ

### (ハ) 白 魚 煮 干

煮干白魚ノ製造ハ從來本縣八郎湖沿岸山本郡濱口村及南秋田郡天王村外一、二ノ地方ニ於テ僅カニ行ハレ其製品ノ多クハ栃木、群馬、茨城等ノ縣外ニ販賣セラレツ、アルガ製法著シク劣等ニシテ製品ノ粗惡ナル爲メ其ノ聲價ヲ得ルニ至ラズ故ニ之レガ製法ニ改良ヲ加ヘ斯業ノ普及ヲ圖リ一般當業者ニ利益ヲ増進セシメンガタメ大正五年度ニ於テ秋季ノ漁獲主産地タル山本郡濱口村芦崎ニ於テ本製造試驗ヲ施行セリ其ノ製法次ノ如シ

#### (甲) 製 造 法 ノ 一

水藻其他小蝦等混雜物ヲ善ク揀別シ淡水ニテ丁寧ニ洗滌シタル原料ヲ籠ニ入レ水切ヲナシ清水一斗ニ付三等食鹽二升ノ割合ヲ以テ造リタル液汁中ニ白魚一斗ヲ投入シ猛火ニテ煮沸シ液面ニ浮ブ汚物ヲ細目ノ叉手網ヲ以テ絶ヘズ取り除キ白魚ノ肉休崩潰セザル程度(即チ三沸騰乃至五沸騰)ニ至ル迄充分ニ煮熟シ(煮熟過度ナレバ肉瘦セ步留リ少ナク煮熟不充分ナル時ハ魚体粉碎シ易キヲ以テ殊ニ注意ヲ要ス)釜ヨリ抄ヒ揚ゲ篋ノ上ニ擴ゲ放冷ス之レヲ一番煮トナス次ニ前回使用シタル煮液ニ更ラニ白魚一斗ヲ投入シ鮮魚一斗ニ對シ二割ノ差鹽ヲ加エ煮熟スルコト前法ノ如クス之レヲ二番煮トナス三番煮以後モ毎回同様ニ割ノ差鹽ヲ加ヘ原料ノ煮熟ヲ行フナリ而シテ放冷シタル白魚ハ直チニ簾ノ上ニ散布シ日光ニ乾燥シ時々反轉シテ手返シテ爲シテ乾シ上ゲ製了ス而シテ液汁ハ原料煮熟ノ度數ヲ重スルニ從ヒ漸次汚濁スルヲ以テ此場合ハ原液ヲ交換シ常ニ清淨ナラシムルハ極メテ必要ニシテ製品ノ良否ニ關スル事大ナリトス

#### (乙) 製 造 法 ノ 二

鹽量ヲ減少シ甘鹽製ヲ造ル爲メ一番煮ハ清水一斗ニ一升ノ食鹽ヲ混ジタル液汁ヲ用ヒ二番煮以後ハ毎回一割ノ差鹽ヲナシ煮熟ス其他製法ハ第一法ニ同ジ步留ハ製造時期ニ依リ異ナルハ勿論用鹽ノ多寡、原料ノ鮮否、煮熟ノ程度、乾燥ノ如何ニヨリ自然ニ其結果ヲ異ニスト雖モ十月下旬漁獲ノ白魚ニツキ製造シタル本試驗ノ結果ニヨレバ鮮魚十貫目ニ對シ製

品四貫目即チ四割強ノ歩留リナリトス  
 一、製品ノ品評試賣 製品ハ品評ト併セテ市場ニ向ケ試賣ノ爲メ大正五年十一月水産講習所ヲ仲介ヲ煩ハシ東京市芝區土橋越後藤屋商店藤田富二郎氏ニ之ヲ試賣セシメタリ其品評及試賣ノ結果左ノ如シ  
 同店ノ品評ニ依レバ食鹽ノ用量ハ一割五分以内ヲ以テ適當ナリト信ズレトモ氣候ノ寒暖ニ斟酌ヲ加フルハ製造上最モ肝要ノ事項ナリトス

試 賣 ノ 價 格

- 金壹圓拾七錢六厘 第一甲法ニヨル製品一貫多ノ價格 (東京市)
- 金壹圓拾壹錢壹厘 第二乙法ニヨル製品一貫多ノ價格 (東京市)
- 以上ノ外秋田市肴町藤林商店ニ試賣シタル價格ハ左ノ如シ
- 金壹圓貳拾錢 第一法ニヨル製品一貫多ノ價格 (秋田市)

以 上

一、收支計算 製造セシ用品ニツキテ原料其他諸費ヨリ試賣ニ至ル經濟上ノ收支計算及損益ヲ擧グレバ左ノ如シ

金拾六圓五拾壹錢五厘	原料代及諸費
內 譯	白魚一石 此重量四十五貫多 (一升目方四百五十多代金拾參錢ノ割)
金拾貳圓	薪十三把 (一把五錢)
金六拾五錢	三等鹽二斗三升 (一升ニ付六錢五厘)
金壹圓參拾六錢五厘	人夫 男一人 四拾五錢 女二人 貳拾五錢
金九拾五錢	

金四拾五錢

荷造費及箱代

金壹圓拾錢

秋田、東京間運賃

收 入

金貳拾壹圓拾六錢八厘

製 品 賣 上 代

但シ製品金八貫目賣却代壹貫多壹圓拾七錢六錢替

損 益

金貳拾壹圓拾六錢八厘

收 入

金拾六圓五拾壹錢五厘

支 出

差 引

金四圓五拾壹錢參厘

純 益 金

養 殖 試 驗

一、鮭 人 工 孚 化

本事業ハ前年度ヨリノ繼續事業ニシテ大正五年十一月二十二日ヨリ採卵ニ着手シ爾後十二月廿八日迄三十七日間ノ長期ニ亘リテ施行セシモ本年ニ於ケル鮭魚ハ未有曾ノ薄漁ナリシヲ以テ豫定卵數六十萬ヲ得ル能ハズ漸ク貳十五萬九千粒ヲ得之レヲ孚化育養ノ上三月廿二日ヨリ四月十四日ニ亘リ四回ニ約貳拾三萬三千余尾ヲ大戸川上流ニ放流セリ、本年ノ如キ薄漁ノ時ニ膺リ其狀況ヲ詳細記叙シ置クハ將來參考トナルベキ事項多カルベキヲ以テ左ニ既往三ケ年ノ狀況ト本年度ノ狀況ヲ比較記載スベシ

(1) 親魚捕獲及採卵狀況

本年ニ於ケル鮭漁ハ前述ノ如ク近來稀ナル薄漁ニシテ概テ漁獲ノ鮭魚ハ小形ノモノ多ク、大ナルモ貳貫五百匁ヲ超エズ小ナルモノニ至リテハ百六十匁ニ過キズ、殊ニ例年大戸川、萬太郎川、走川ノ三漁場中最モ漁獲多キ大戸川漁場ノ如キハ其漁獲尾數ノ約半數ハ俗稱「ピン」ト呼ブ小形雄魚ニシテ例年各漁場平均雌雄漁獲尾數ノ比ハ雌四割六分ニ對シ雄五割四分ノ割合ヲ示セルモ本年ニ於ケル狀況ハ雄魚ノ數雌魚ノ一倍半以上ニ及ブ奇現象ヲ呈シ到底上記三漁場ノミニテハ所要ノ母魚ヲ得ル能ハザル狀態ナリシヲ以テ特ニ神宮寺村漁區内人著漁場ニ於テ漁獲セル親魚ヨリモ採卵スルコトトナシ大正五年十一月二十二日ヨリ十二月廿八日マデ三十七日ノ長期間ニ亘リ日夜極力採卵セルモ採卵粒數ハ豫定ノ半數ニモ達セズ漸ク二十五萬九千粒ヲ得タルノミナレバ如何ニ其ノ薄漁ナリシカヲ推知シ得ベシ

今次ニ大正二年以降三ヶ年間ノ採卵期中ニ於ケル三漁場合計漁獲高及採卵數ト本年度トヲ比較表示セバ左ノ如シ

年 度	採 卵 期 間	採 卵 日 數	尾 漁 獲 數	採 卵 魚 卵		未 熟	放 卵 後	採 卵 數	一尾平均採卵數
				雌 雄 別	母 魚				
大正二年	自十一月廿一日至十二月四日	十四日間	九四一	四〇六	五三五	二四五	六九	五〇〇,〇〇〇	二,〇四一
大正三年	自十一月廿七日至十二月廿四日	二十八日間	九二二	四〇〇	五〇四	三〇九	九	六五,三〇〇	二,一〇〇
大正四年	自十一月廿四日至十二月十四日	二十一日間	六九九	三三三	三六六	二八二	九	六六,六〇〇	二,三六四
大正五年	自十一月廿八日至十二月廿八日	三十七日間	四九九	一七五	三二四	一一九	六	二五九,〇〇〇	二,一九五

但シ大正五年度分ニハ三漁場ノ外人著漁場捕獲ノモノヲ含ム

尙各漁場別ニ本年度ノ漁獲尾數採卵親魚尾數採卵數ヲ示セバ左ノ如シ

漁 場 名	漁 獲 尾 數		採 卵 親 魚 尾 數	採 卵 數
	雌	雄		
大 戸 川	五九	一二五	三〇四	四六,三〇〇
走 川	六七	八六	四八	一一二,一〇〇
萬 太 郎 川	三六	六八	二五	五九,〇〇〇
人 著 川	一三	五	一一	三一,六〇〇
合 計	一七五	二八四	一一九	二五九,〇〇〇

次ニ漁獲高ト採卵雌魚數ノ割合ニ就キテ調査スルトキハ花館採卵場ハ雄物川河口ヲ溯ルコト約二十里ノ上流ナルガ故ニ未熟雌魚ノ率ハ極メテ僅少ナレドモ其反面トシテ一部若シハ全部放卵後ノ雌魚ハ比較的多數ナリトス今各漁場ニ於ケル採卵魚未熟魚及放卵後ノ尾數ヲ比較表示スレハ左ノ如シ

漁 場 名	全部採卵ノ母魚數		未熟雌魚數	放卵後ノ魚數		不採卵魚數	計
	母 魚 數	一 部 放 卵 後 母 魚 數		母 魚 數	未 熟 雌 魚 數		
大 戸 川	七	二七	一	二二	三	五九	
走 川	三六	一一	五	一一	三	六七	
萬 太 郎 川	二〇	六	一	九	一	三七	
計	六三	四五	六	四一	七	一六二	

右ノ表ニ掲ゲタル如ク捕獲雌魚百六十二尾中全部採卵シタルモノハ僅カニ六十三尾ニシテ一部放卵後ノ雌魚ヨリセルモノハ四十五尾全部放卵後ノモノハ四十一尾ノ多數ニ及ブガ故ニ一尾平均ノ採卵數ハ二千百粒ノ少數ナリ就中大戸川ノ如キハ河川ノ小ナルタメ訴上魚ノ小形ナルト夜間浜上スルモノヲ翌朝漁獲スルガ故ニ夜中放卵スルモノ多クタメニ一尾平均採卵數ハ千三百六十粒ニ過キズ走川漁場ノ二千五百四十粒萬太郎川ノ二千三百六十粒ニ比シ約千粒以上少數ナリ

(口) 育養經過

一、水量 常時一分間ノ注入水量ハ一石五斗乃至二石ナレドモ二月下旬ヨリ三月上旬ニ至ル間ハ減水著シク各水開ヲ閉鎖スルモ堤防ヨリノ漏水多キ爲メ浮化場ニ注入スル水量ハ漸ク一分間一石内外ナリ然レドモ三月中旬以降融雪期ニ入りテハ著シク増水セリ

二、水温 浮化用水ハ浮化場附近ニアル面積二町歩餘ノ溜池ノ底部ヨリ湧出シ一時該溜池ニ湛ヘタルモノヲ引用スルガ故ニ概テ水温ハ氣温ノ昇降ニ依リテ左右セラレ且ツ融雪期ニ於テハ下降スルヲ常トス  
本年度ニ於ケル各月ノ平均水温左ノ如シ

月別	上旬		中旬		下旬	
	午前六時正	午後六時	午前六時正	午後六時	午前六時正	午後六時
十一月	一、三	一、一	一、〇、九	一、一、三	一、二、五	一、二、八
十二月	九、八	一、〇、四	九、四	九、八	八、五	八、五
一月	八、一	九、一	七、二	八、三	五、八	六、九
二月	八、一	九、一	七、二	八、三	五、八	六、九

三月	六、六	七、七	七、五	八、一	九、〇	九、一	八、九	一、〇、三	一、〇、八
四月	一、〇、五	一、二、一	一、二、七	一、	一、	一、	一、	一、	一、

三、浮化浮游

前記採卵ノ鮭卵二十五萬九千粒ハ孵化場ニ收容シ育養シタルガ收容ヨリ發眼マデ早キハ十七日遅キモノハ二十六日ヲ要シ發眼ヨリ孵化マデハ二十九日乃至四十日ヲ要シタリ爾後二十九日乃至四十五日ニシテ全部浮游スルニ至レリ、概シテ十一月下旬ヨリ十二月初旬ニ採卵シタルモノハ水温高キガ故ニ發育早ク其以後ノモノハ漸次水温下降セシヲ以テ發育遅緩ナリ、今育養ノ經過ヲ表示スレバ左ノ如シ

浮化槽番號	採卵月日	收容卵數	發眼月日	浮化月日	浮游月日
第一號	自十一月廿二日至十二月七日	一三二、〇〇〇	自十二月十四日至十二月廿三日	自一月二十九日至二月九日	自二月十三日至二月二十三日
第二號	自十二月廿七日至十二月廿五日	一二四、〇〇〇	自十二月廿三日至十二月三十日	自一月二十五日至二月五日	自二月十一日至二月二十一日
第三號	自十二月廿四日至十二月廿六日	三、〇〇〇	自一月十六日至一月二十日	自一月二十五日至一月二十七日	自二月二十五日至二月三十一日

四、投餌

浮游後一週間ニシテ投餌シ始ム其量ハ最初數日間ハ一萬尾ニ對シ一日ノ給餌量鰻卵々黃一個トシ一日三回ニ分與セリ、爾後餌質ヲ蠶蛹粉ニ改メ一日三回ヨリ漸次増加セシメ放流前ニハ約十回ヲ給與セリ  
其ノ成長度左ノ如シ

投餌後一週 (四月六日) 体長一寸一分五厘

投餌後二週 (四月十三日) 體長一寸二分五厘

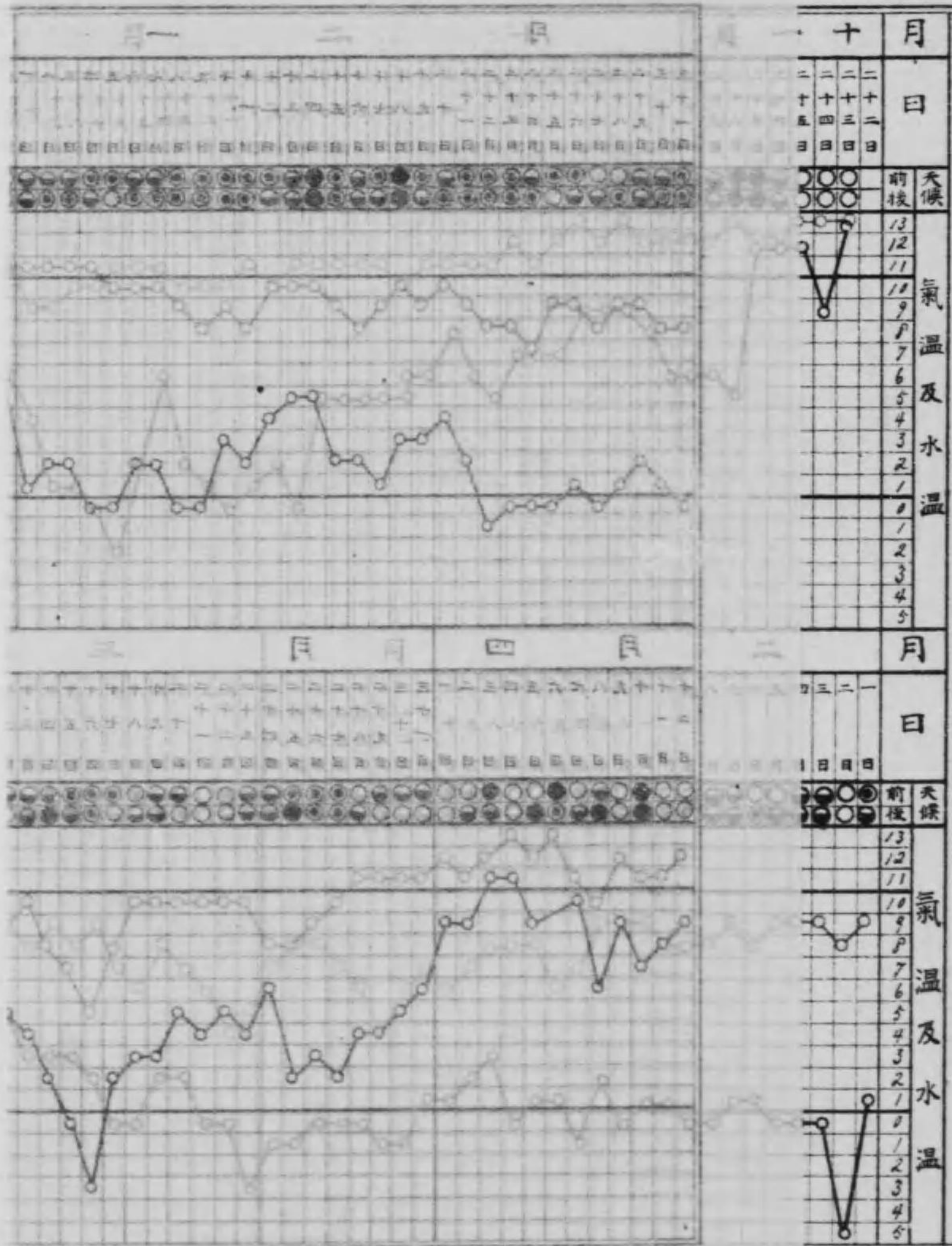
五、減耗數 疾病ハ浮游前ニハ臍囊水腫病ニ罹ルモノ多ク浮游後ニ於テハ白鱗症ニ胃サレ斃死スルモノ死魚ノ大部分ヲ占ム畸形兒ノ比較的僅少ナリシハ不漁ナリシタメ採卵時ニ於テ充分ノ注意ヲ拂ヒタル結果ナルベシ、各期間ニ於ケル斃死卵數左ノ如シ

自收容至發眼死卵數	一七、二九七
自發眼至浮化死卵數	一、六九九
自孵化至浮游死魚數	四、三五二
浮游後ノ死魚數	一、二七九
畸形兒	三一
合計	二五、〇五四
收容卵數ニ對スル百分率	九、三%

六、放流 魚兒ハ浮游後一週間内外マデハ浮化槽内ニテ飼育シ後本年新設ノ屋外飼育池(面積二坪半)二個ニ移シテ飼養繼續シ投餌後十四日乃至三十日間ニシテ魚兒ノ體長一寸二分乃至一寸五分平均一寸三分ニ成育セル魚兒二十三萬三千九百餘尾ヲ左記四回ニ亘リテ浮化場前大戸川ニ放流セリ

三月二十二日	尾數	五〇、〇〇〇
四月二日	尾數	六七、四八三
四月七日	尾數	五四、八六八
四月十四日	尾數	六一、五九五

大正五年度鮭人工孵化期氣象表





合 計

二五、〇五四

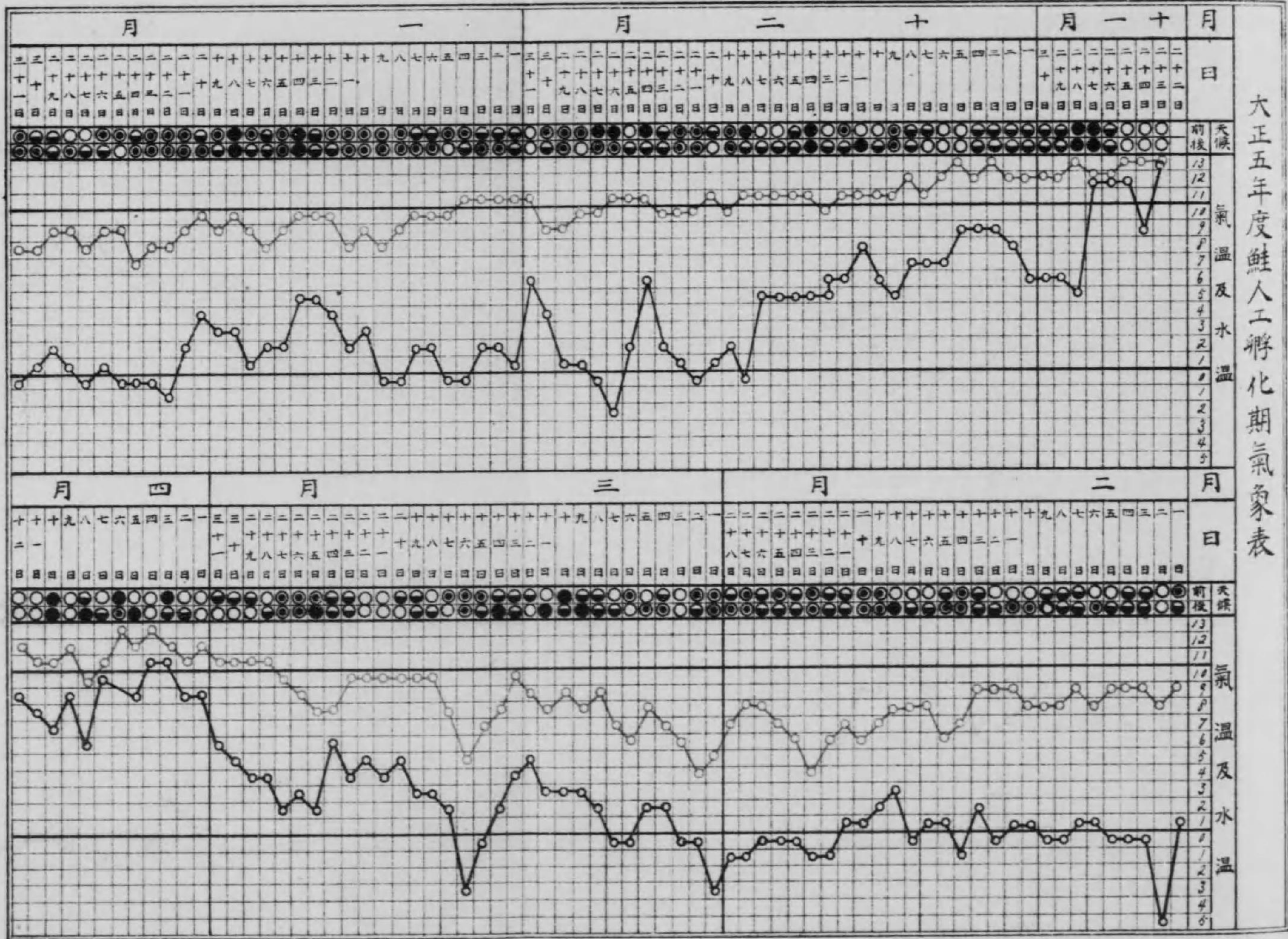
九、三%

六、放 流 魚兒ハ浮游後一週間内外マデハ半化槽内ニテ飼育シ後本年新設ノ屋外飼育池(面積二坪半)二個ニ移シテ

飼養繼續シ投餌後十四日乃至三十日間ニシテ魚兒ノ体長一寸二分乃至一寸五分平均一寸三分ニ成育セル魚兒二十三萬  
三千九百餘尾ヲ左記四回ニ亘リテ半化場前大戸川ニ放流セリ

月 日	尾 數
三月二十二日	五〇、〇〇〇
四月二日	六七、四八三
四月七日	五四、八六八
四月十四日	六一、五九五

大正五年度鮭人工孵化期氣象表



合計 二二三、九四六  
收容數ト放流數ノ百分率 九〇、七%

二、姫鱒移殖

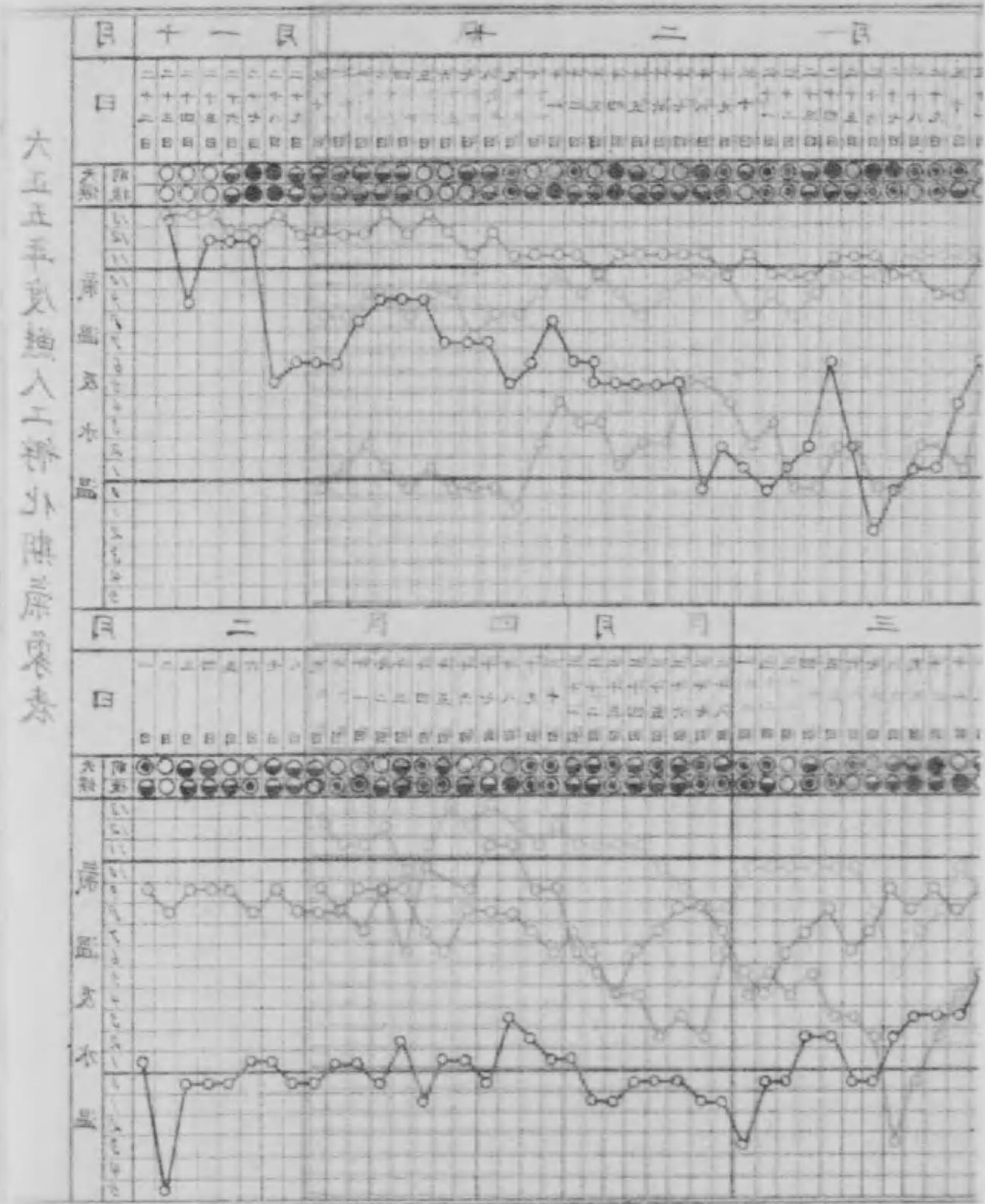
本試驗ハ前年度ニ繼續シ南秋田郡北浦町一ノ目瀉及由利郡上濱村栗山池ニ十和田湖産姫鱒ノ移殖ヲ計ル目的ニテ前年度ニ同シク其ノ孵化育養方ヲ北浦町並仁賀保養魚組合ニ囑託シ該試驗ヲ施行セリ、本年度ニ於ケル育養經過概況左ノ如シ

甲、一ノ目瀉孵化場

(1) 卵運搬

大正五年十一月三日十和田湖和井内養魚場ニ於テ採卵シ(前年度ニ比シ九日間早シ)攝氏八度ノ育水温ニテ育養シ十二月四日發眼シタル姫鱒原卵十五萬粒ヲ購入シ十二月十八日荷送ノ上和井内養魚場發荷翌十九日午後三時三十五分大館驛發ノ列車ニ積載シ同日午後八時四十分船川線羽立驛ニ到着セリ翌二十日北浦町孵化場ニ輸送セントシタルモ貨物輻輳ノタメ能ハズ漸ク二十一日午前十一時孵化場ニ運搬シ同日午後一時ヨリ荷造開函シ同四時全部下槽セリ當時ノ温度ハ室内四度外氣五度育水温十一度五分ニシテ函内温度ハ零度ヲ示シ水苔ノ表面稍々凍結セル傾向アリタルモ内部ハ濕潤ノ度宜シキヲ得且ツ卵粒ハ昨年度ト同様優良ナリシタメ死卵極メテ少ナク僅カニ二百二十三粒(總卵數十五萬粒ニ對シ、六%)ヲ算スルノミニシテ運搬成績極メテ良好ナリキ(荷造ノ方法ハ前年度同様ナルヲ以テ茲ニ省略ス)

(口) 育養經過



前記ノ如ク十二月二十一日浮化場ニ收容シタル原卵約十五萬粒ハ大正六年一月十五日ヨリ同二十五日ノ十一日間ニ亙リテ浮化シ其後二月二十三日ニ至リテ浮游シ始メ同三十五日全部ノ浮游ヲ見ルニ至レリ  
 浮游セル魚兒ハ是レ迄餌料投與ノ初期ニ於テハ成績頗ル良好ナルモ投餌以後約二十五日間ヲ經過スルニ及ビテ疾病ニ冒サル、モノ多ク從テ多數ノ斃魚ヲ出シ成績宜シカラザル傾向アリタルモ前年度試驗ノ結果ニ徴シ投餌後三週間ヲ經過スル頃ヨリ一部ヲ屋外飼養池ニ移シ水面積比較的廣大ナル所ニ於テ飼養スルトキハ斃魚數ヲ減少シ得ベキヲ確メタルモ尙該疾病(魚兒ノ直腸部一帶ニ充血シ患部ノ白變スルニ至レバ斃死スルモノ)ニシテ水産講習所ノ調査ニ依レバ或種水生菌ノ消化管内ニ寄生スルニヨルト認定セラレタルモノ)ヲ根絶スルコト能ザリキ依テ今年度ハ尙引續キ之レヲ撲滅スベキ方法ニ付キ考究セン目的ニテ昨年度マデハ浮游後放流期ニ至ルマデ約三十五日鶏卵々黃ノミヲ投與セルモ本年度ハ浮游後十日間ハ前年度ニ同シク卵黃ヲ給與シ爾後放流期ニ至ルマデ約二十五日間ハ専ラ蠶蛹粉ヲ餌料トシテ給與シ一日一萬尾ニ對シ三々ヨリ漸次五々ニ増加シテ飼養セリ

其結果ハ頗ル良好ニシテ例年ニ比シ魚兒ハ稍々疲瘁セル傾向アリタルモ從來ノ如キ疾病ニ冒サル、モノ一尾モナキ状態ナリキ依テ是迄施行セル種々ナル飼養試驗ノ結果ニ徴シ疾病發生ノ原因ト認ムベキ事項左ノ如シ  
 常孵化場用水ハ十二月下旬ヨリ二月下旬ニ至ル期間ハ水温十度乃至十二度ノ間ヲ昇降スレドモ三月ニ入りテハ外氣温温暖トナルニ及ヒ水温モ亦上昇シ十三度以上ニ及ブコトアリタメニ殘餌ノ腐敗速カニシテ若シ稚魚ノ之レヲ攝食スルトキハ之レニ發生スル水生菌モ同時ニ魚体内ニ侵入シ消化管内壁ヲ通シテ盛ニ菌糸ヲ蔓延セシムルガ故ニ稚魚ハ漸次勢力衰へ捕食力鈍リ遂ニ斃死スルニ至ルナリ然レドモ蠶蛹粉ハ卵黃ノ如ク水面下ニ沈降スルコトナク多ク水面ニ浮上捕食ニ便ナルガ故ニ殘餘ヲ生ゼズ悉ク魚兒ノ捕食スル所トナルヲ以テ腐敗ノ憂ナク從テ前記ノ如キ疾病ニ冒サル、モノナキ所以ナルベシト認ム  
 要スルニ前述ノ理ニヨリ當浮化場トシテハ長期間卵黃ヲ投與スルハ成績良好ナラズ然レドモ殘餌ヲ生ゼサル程度ノ少量

ヲ給與スルトキハ被害ナカルベキモ魚兒ノ成長遲緩ナルヲ以テ三月ニ入りテハ専ラ蠶蛹粉ヲ投與スルヲ適當ト認ム

(ハ) 放 養

上記ノ如ク魚兒ハ二月廿七日ヨリ四月四日迄三十七日間飼養シ体長最大一寸二分最小八分平均一寸ニ成育セルヲ以テ大正六年四月五日全部約十三萬六千餘尾ヲ一ノ目潟ニ放流シ本年度ノ試驗ヲ了セリ

(ニ) 漁 獲

放養姬鱒ノ成長度減耗率並ニ湖ノ生産力等ヲ究メントシ本年度ハ八月、十月ノ兩回ニ亙リテ漁獲試驗ヲ遂行セルモ其結果良好ナラズ尙漁具漁法ノ改善並ニ漁獲時期等ニ就キ充分考究スルノ要アルヲ以テ明年度モ該試驗ヲ施行シ之レガ研究ヲ重テントス本年度ノ概況左ノ如シ

第一回 捕 獲

使用セル漁具ノ種類數量左ノ如シ

- 刺 網 二 把 (一寸五分目三百掛五十間切ヲ四十間ニ縮結セルモノ)
  - 刺 網 六 把 (二寸八分目二百掛五十間切ヲ四十間ニ縮結セルモノ)
  - 刺 網 五 把 (絹糸二寸目二十掛長サ十間ヲ五間ニ縮結セルモノ)
- 八月六日 刺網十三把ヲ使用シ七日未明揚網セルモ漁獲ナシ蓋シ餘リ深所ニ定置セル嫌アリ且ツ小目ノ刺網ハ目合不適當ナルヲ認メタリ
- 八月七日 夕方同十一把ヲ使用シ八日未明揚網シ姬鱒十四尾(最大二百八十五匁最小百三十匁)ヲ漁獲セリ

八月八日 同十一把ヲ使用シ九日未明揚網シ姫鱒十二尾(最大三百五十匁最小百七十匁)ヲ漁獲セリ  
以上三日間ノ試驗ノ結果二日間ハ相當漁獲アリ尙網目ノ適當ナル漁具ヲ使用セバ毎回相當ノ漁利アルモノト思料セラレ  
、ヲ以テ漁獲ヲ中止セリ

第二回捕獲

前回試驗ノ結果ニ徴シ今回ハ姫鱒捕獲ニ適セル様左記刺網ヲ新調使用セリ

一、一號 綿糸 二寸八分目五十掛五十間ヲ二十五間ニ縮結セルモノ 八把

二、二號 綿糸 同 上 八把

十月十九日 (夕方ヨリ翌朝未明マデ)二號綿糸刺網五把ヲ使用シ雄十三尾雌五尾合計十八尾ヲ捕獲セリ雌雄共ニ成熟セ  
ルヲ認ム

十月二十日 (夕方ヨリ翌朝未明マデ)二號綿糸刺網八把ヲ使用セルモ暴風雨ノタメ各々投網ノ位置ヲ變シ相結合セルタ  
メ漁獲ナシ

十月二十一日 時化ニテ休漁

十月二十二日 使用漁具數二號綿糸刺網八把漁獲ナシ

十月二十三日 同上

十月二十四日 同上

十月二十八日 (夕方ヨリ翌朝未明マデ)二號綿糸刺網八把使用シ雄一尾(体長一尺二寸)ノ漁獲アリ

十月二十九日 時化ニテ休漁

十月三十日 (夕方ヨリ翌朝未明マデ)二號綿糸刺網及一號綿糸刺網各々八把ヲ二把繼トシテ使用セリ漁獲ナシ

十月三十一日 (夕方ヨリ翌朝未明マデ)魚群游泳ノ場所ヲ探查セントシ二號綿糸刺網五把繼トシテ湖心部ニ投網シ尙一  
號綿糸刺網五束ヲ使用シ湖畔ニ定置セリ

湖心部ニ定置セルモノニハ漁獲ナク只湖畔部ノ網ニ体長一尺一寸ノ姫鱒一尾漁獲アラタルノミ

今回ノ試驗ハ捕獲魚ヨリ親魚ヲ得テ採卵スベキ豫定ナリシモ時期稍々遅レタル傾向アリテ成績良好ナラザリキ

乙、栗山池孵化場

(イ) 卵運搬

北浦町一ノ目潟字化場ニ收容セル姫鱒原卵ト共ニ大正五年十二月十九日午後三時三十五分大館驛發同日午後八時秋田驛  
ニ到着セル原卵三萬粒ハ翌廿日秋田本莊間ヲ客馬車ニ積載運搬シ本莊ヨリハ人夫ニ背負ハシメ廿一日上郷村字本郷字化  
場ニ着シ翌二十二日解荷ノ上字化槽ニ收容セリ運搬中ノ斃卵數五十二粒ニシテ總數ノ一%強ニ過ギズ成績良好ナリキ

(ロ) 育養經過及放養

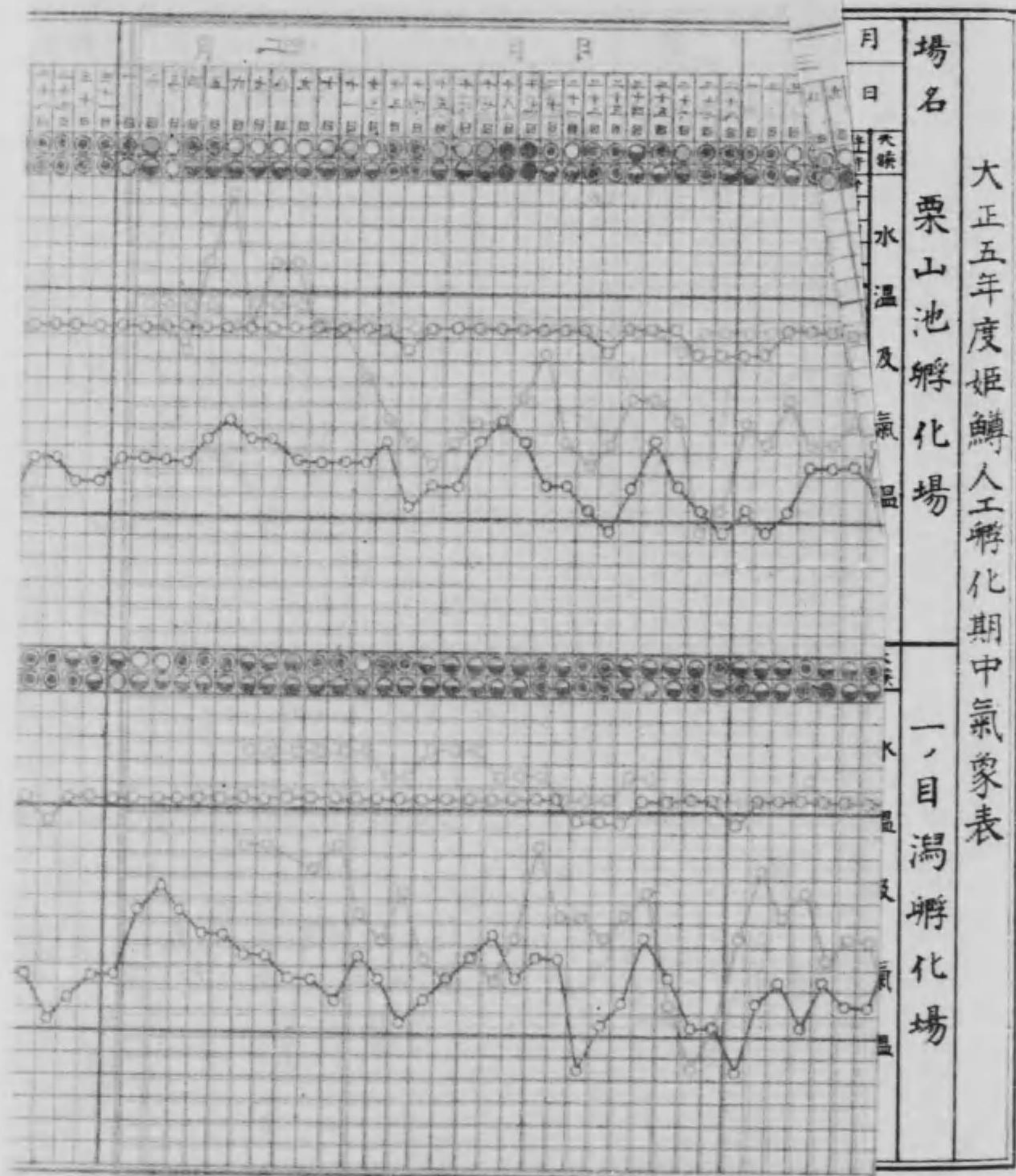
上記ノ如ク大正五年十二月二十二日收容セル原卵ハ大正六年一月廿三日ヨリ字化シ始メ二月十四日全部字化終了シ三月  
十日ヨリ同二十日亘リテ浮游セルヲ以テ翌廿一日ヨリ卵黃ヲ投與シテ養育セルモ三月二十六日ヨリハ一ノ目潟字化場ノ  
例ニ從ヒ蠶蛹粉ヲ給與シ育養繼續セルガ魚兒ハ前年度同様頗ル強健ナリシヲ以テ四月二十日全部約二萬八千餘尾ヲ栗山  
池ニ放養セリ

(ハ) 捕獲

栗山池ハ大正三年十二月ヨリ姫鱒移殖事業ヲ開始シ翌四年四月初メテ姫鱒稚魚約三萬尾ヲ放養セルガ大正五年ニ至リ十月下旬ヨリ十一月月上旬ニ亘リテ產卵ノタメ池畔ニ來游シ厚群ヲナシテ同池ニ注入スル河川ニ浜上シ產卵スルモノアルニ至レテ以テ築ヲ裝置シ是レヲ捕獲セリ其數約百二十尾ニシテ最大體長一尺五分體量八十五匁最小體長八分體量六十四匁何レモ卵精成熟シ概シテ雄ノ數多キヲ認メタリ、就中優良ナル雌魚十數尾ヲ撰ビ之レヨリ採卵シ孳化場ニ收容セルモ親魚年齡若キ爲メカ全部斃死スルニ至レリ  
普通姫鱒ハ滿三年乃至四年ニシテ成熟期ニ達スルモノト稱セラル、モ當池ノ如キハ放養翌年ノ秋季ニ於テ成熟シ產卵ノタメ來游スルノ如キハ他ニ多ク例ヲ見ザル事實ニシテ將來益々研究ノ餘地アルモノト認ム

大正五年度姫鱒孳化育養經過一覽表

養育	收 容		收 容 月 日	收 容 原 卵 數	一ノ目潟孳化場	仁賀保組合孳化場
	温 水 育	化 解				
初 日	平 均	最 低	日	數		
同	大正六年一月十五日	十三度五分	大正五年十二月二十一日	一五〇、〇〇〇粒		
同	大正六年一月二十三日	十度五分	大正五年十二月二十二日	三〇、〇〇〇粒		
同	大正六年一月二十五日	十一度三分				
同	大正六年二月十四日	九度				



大正五年度姫鱒人工孳化期中氣象表

場名 栗山池孳化場

一ノ目潟孳化場

月 日

水 温 及 氣 温

養

化 孵 温 水

終 初 平 最

日 日 均 低

同 大正六年一月十五日  
二十五日

十一度五分  
十一度三分

同 大正六年一月二十三日  
二月十四日

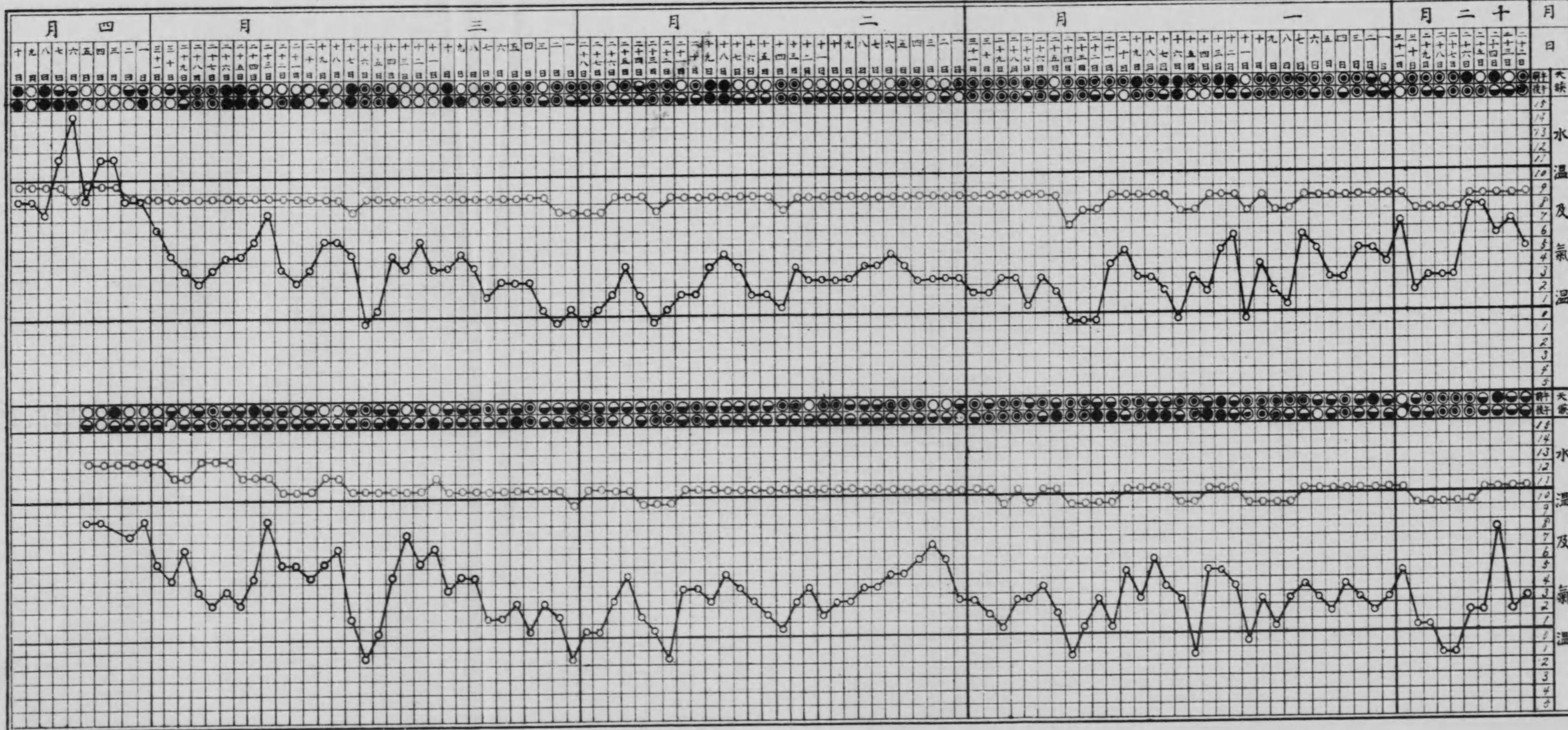
九度 八度

大正五年度姫鮭人工孵化期中氣象表

場名

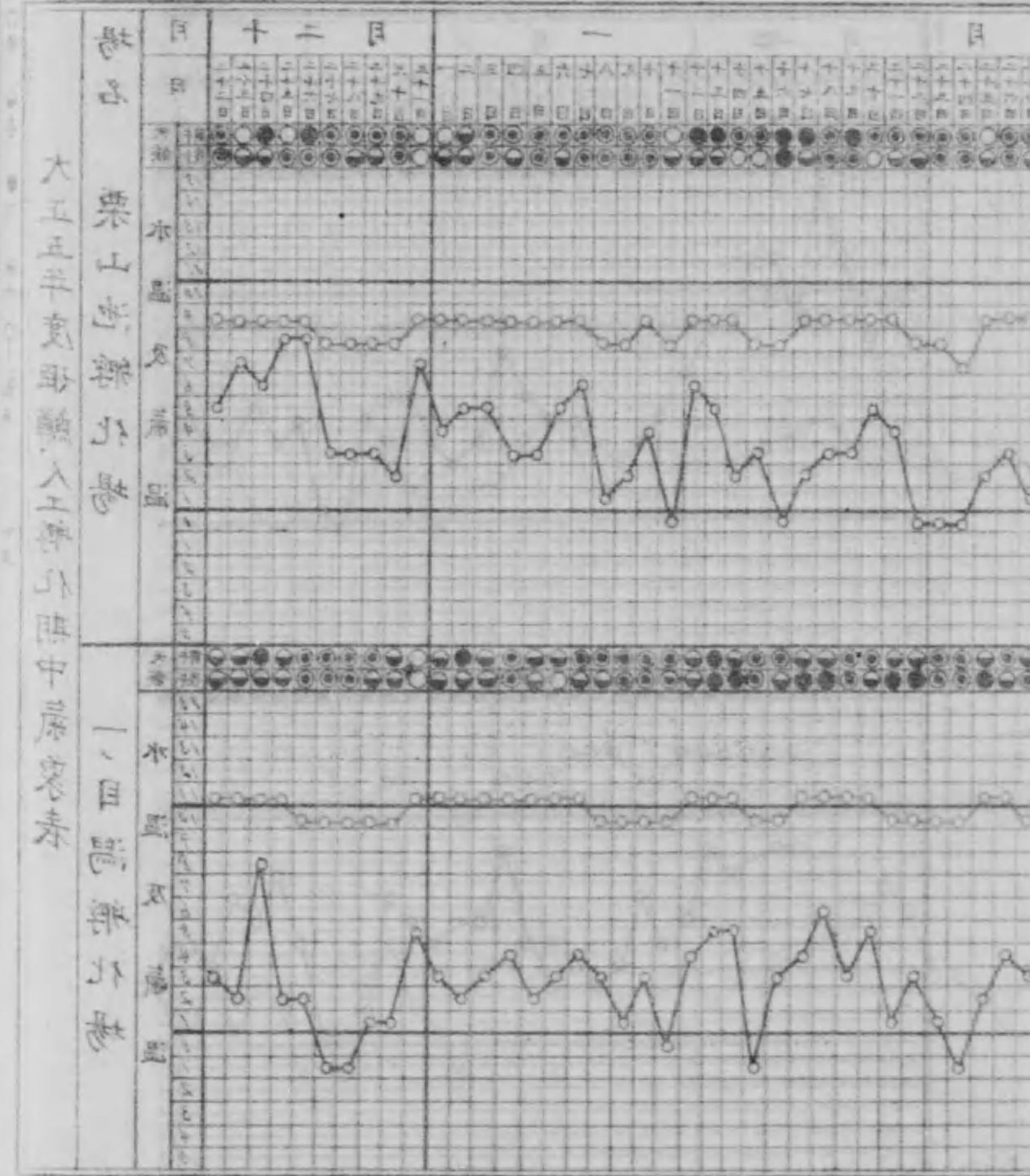
栗山池孵化場

一目淵孵化場



三、虹鱒採卵孵化

養 放		數 卵 魚 死 斃		過 經		
原卵數ニ對スル放養百分率	放 養 地	放 養 尾 數	合 計	投 餌 日 數	浮 游 期	經 過 期
					初 日	發 眼 後 日 數
九十一%強	南秋田郡北浦町一ノ目潟	五四月 一三六、六五三尾	一三三、三四七	三十八日間	大正六年二月二十三日 同 二月二十七日	四十二日乃至五十二日 八十一日乃至八十五日
	由利郡上濱村栗山池	二四月 二八、二四二尾	一、七五八	三十一日間	大正六年三月十日 同 三月二十日	五十日乃至七十一日 九十六日乃至百六日
			運搬中ノ死卵數 自收容至孵化死卵數 自孵化至浮游死魚數 投餌中死魚數			
			二二三粒 九、二九〇粒 七〇八尾 三、一二六尾 一三、三四七			
			五二粒 一、四七八粒 一六八尾 六〇尾			



(イ) 親 魚

米國種虹鱒ハ大正二年五月發眼卵ニテ本縣ニ移植後本場附屬八柳養魚場ニテ孵化飼養シ大部分ハ溜池養魚試驗池空泰沼ニ放養シタルガ其際八柳養魚場内鱒飼育池ニ於テ飼養セルモノハ移植後滿三年ヲ經過シ大正五年五月九日第一回ノ產卵ヲ行ヒタルモノナリ

(ロ) 採 卵

大正五年五月九日飼育池ノ親魚ヲ捕獲シ卵精ノ熟否ヲ檢セルニ雄魚一尾ノ未熟ナリシ外全部成熟セルヲ認メタルヲ以テ乾導式搾出法ニヨリ左記雌魚十一尾ヨリ六千八百餘粒ヲ採卵シ親魚ハ其儘飼育池ニ放養セリ

雌 魚 (合計十一尾)	体 長	体 高	体 量
九 寸 寸	二 寸 一 分	九 十 七 匁	
七 寸 寸	一 寸 九 分	六 十 五 匁	
一 尺 一 寸	一 寸 三 分	百 三 十 八 匁	
一 尺 一 寸	一 寸 二 分	百 三 十 七 匁	
一 尺 一 寸 五 分	二 寸 四 分	百 九 十 四 匁	
九 寸 五 分	一 寸 九 分	百 九 匁	
九 寸 四 分	一 寸 七 分	百 三 十 匁	
七 寸 六 分	一 寸 七 分	八 十 匁	

雄 魚 (合計六尾)

雄 魚 (合計六尾)	体 長	体 高	体 量
一 尺 三 分	二 寸 四 分	百 五 十 匁	
九 寸 二 分	一 寸 八 分	百 二 十 五 匁	
一 尺 二 分	二 寸 二 分	百 三 十 五 匁	
一 尺 七 分	二 寸 七 分	百 五 十 四 匁	
八 寸 五 分	一 寸 八 分	七 十 六 匁	
七 寸 二 分	一 寸 七 分	六 十 五 匁	
八 寸 五 分	一 寸 八 分	七 十 六 匁	
七 寸 五 分	一 寸 六 分	五 十 六 匁	
七 寸 九 分	二 寸 一 分	七 十 一 匁	

採 卵 數 六千八百二十粒(一尾平均六百二十粒)

卵 粒 ノ 大 ヲ	最 大 徑 二 分	最 小 徑 一 分	平 均 徑 一 分 五 厘
卵ノ重量(十粒)	最 大 五 分 五 厘	最 小 三 分	平 均 四 分

(ハ) 孵 化 装 置



孵化槽ハ「アットキンス」氏式字化槽(長サ九尺幅一尺深サ九寸)一個ヲ使用シ受精卵ハ方一尺ノ「アットキンス」氏字化盆ニ並列シテ槽中ニ收容セリ

字化用水ハ空素沼ノ浸透水タル八柳養魚場用水ヲ使用シ一分間約一斗二升ノ割合ヲ以テ字化槽ニ注水セリ

(ニ) 孚 化 日 數

採卵月日 發眼開始 發眼終了 孚化開始 孚化終了 孚化中平均水温 孚化日數

五月 九日 五月二十一日 五月二十五日 五月三十一日 六月 五日 一三度六分 二三—二八日

(ホ) 減 耗 數 ト 運 搬

卵子ハ一般ニ過熟ノ傾向アリシ爲メ死卵意外ニ多ク孵化終了マデニ五千百一粒ノ多數ニ及ベリ

六月一日由利郡栗山池へ移殖ノ目的ニテ發眼卵中健全ナルモノ千二百粒ヲ採別シ荷造ノ上上郷村本郷孵化場ニ運搬シ同日薄暮字化場ニ到着シ直チニ孵化槽ニ收容セリ

(ヘ) 孚 化 率

採卵數六千八百二十五粒ノ内孚化セシモノ一千七百二十四尾ニシテ孵化率二五、二六%ニ相當ス

四、鯉 兒 配 布

本事業ハ明治四十三年度ヨリノ繼續事業ニシテ本縣内各地湖沼溜池其他ノ水域ヲ利用シ養鯉業ノ普及ヲ計ランタメ是レ迄年々本場八柳養魚場ニ於テ養成シタル鯉兒ヲ適地ニ無償配布シツ、アリシガ今ヤ養鯉業ハ副業トシテ各地ニ行ハル、ニ至リタルヲ以テ本年度ヨリハ別項ノ如キ鯉兒配付規程ヲ制定シ有償配布トシタルモ育養池積狹隘ナルタメ配付可能尾

數約十萬ニ過ザルニ配布申請尾數ハ約二十餘萬ノ多數ニ及ビ到底全部ノ需要ニ應ジ得ザルノ狀況ナリキ本年度ニ於ケル一般ノ概況ヲ示セバ左ノ如シ

(イ) 親 魚 飼 育

親魚ハ昨年使用ノモノト同様ニシテ前年採卵後雌雄ヲ分養シタル儘ニテ越冬セシメ四月十日ヨリ給餌シ漸次攝食ノ度ニ依リテ給餌量ヲ増加シ専ラ田螺、蠶蛹ヲ給與シテ飼育セリ、然シテ本年度採卵ニ供シタル親魚ハ雌二十二尾雄四十尾(數回使用ノモノアリ)ニシテ是レガ飼育ニ要シタル一ケ年ノ給餌量ハ乾燥蠶蛹三斗七升田螺十五石五斗ニシテ給餌期間ハ四月中旬ヨリ十月中旬ニ亘ル約六ヶ月間トス之レヲ月別ニ表示スルバ左ノ如シ

四 月	蠶蛹 一斗	田螺 七斗	五 月	田螺 二石
六 月	田螺 二石九斗		七 月	田螺 三石七斗
八 月	田螺 三石七斗		九 月	田螺 二石五斗
十 月	蠶蛹 二斗七升			

(ロ) 採 卵 及 孚 化

産卵池ハ前年使用ノモノハ面積狹隘ニシテ産卵動作ニ不便ヲ感スルヲ以テ本年ハ主トシテ面積七坪水深一尺ノ鯉兒飼育池ヲ以テ之レニ充テ魚巢ハ之レ迄重ニ棕梠皮ヲ使用セシモ本年度ハ日蔭蓋ヲ煮沸シ然ル後之レヲ乾燥シテ使用セリ

本年ニ於ケル第一回ノ採卵ハ五月十六日ヲ以テ行ヒ爾後漸次八月一日ニ至ルマデ前後七回ニ亘リテ採卵總數五十六萬八千五百粒ヲ得タリ一雌魚ノ平均産卵數ハ僅カニ二萬五千八百餘粒ニシテ普通親魚ノ半數ニモ達セザル状態ナリ是レ前年ニ於ケル飼育方法ノ周到ナラザルニモ依ルナランモ該親魚ハ主トシテ本縣産ノ系統不明ナルモノニシテ種類ノ優良ナラ

ザルニ基因スル處多カルベク爾後ハ優良種ヲ以テ親魚トスル必要アルコトヲ認メタリ  
 孵化ニ要シタル日數ハ第一回第二回採卵ノモノハ當時水温比較的低ニシテ最低十二度五分ニ下降スルコトアリタルタ  
 メ十日ノ長時日ヲ要シタルモ第三回以降ハ水温漸次上昇シ二十度以上ヲ保ツタルヲ以テ早キハ四日遅キモ一週間ヲ經過  
 スルモノナキ狀況ナリキ  
 採卵數及孵化尾數ニツキ詳記セバ左ノ如シ  
 採卵 孵化 表

採卵回数	採卵月日	親魚數		產卵數	孵化尾數	百分率	摘 要
		雌	雄				
第一回	五月十六日	三	一〇	一四三、〇〇〇	四五、〇〇〇	三一、四	稻田苗代利用鯉卵孵 化試驗ノタメ奈良環 之助へ配付 同 上
第二回	六月一日	三	一二	五二、〇〇〇	四五、〇〇〇	七三、五	
第三回	六月十二日	二	六	四三、〇〇〇	三二、〇〇〇	七三、五	
第四回	六月十九日	四	一二	七二、〇〇〇	!	!	
第五回	六月二十三日	四	一〇	八五、〇〇〇	!	!	
第六回	七月十四日	三	九	九八、〇〇〇	七四、〇〇〇	七一、五	
第七回	八月一日	三	一〇	七五、〇〇〇	五四、〇〇〇	七二、〇	

(ハ) 魚 兒 飼 育

孵化池ハ是レ迄產卵池トシテ使用シタル面積二坪水深八寸ノ叩池五個ヲ使用セリ飼育方法ハ前年ト大差ナク即チ孵化シ

タル魚兒ノ浮游スルヲ待チテ魚巢ヲ取除キ煮熟シタル鶏卵々黃ヲ水ニ溶キ如露ニテ池邊ニ撒布シ給與スルコト三日乃至  
 七日ニシテ飼育池ニ移シ引續キ育養セリ魚兒ノ飼育池ニハ親魚ノ產卵ト同時ニ厩肥ヲ池底ニ撒布シ能ク攪伴シテ日光ニ  
 晒ラシ然ル後水ヲ滿シテ専ラ天然餌料タル「みじん」ノ繁殖ヲ計レリ

然シテ餌蟲ノ發生狀況ハ夏季水温ノ上昇シタルトキハ五日乃至一週間ニシテ發生シタルモ春季末ダ水温ノ低冷ナル時ニ  
 アリテハ二週間ヲ要セリ、元來八柳養魚場ノ土質ハ砂地ナルヲ以テ比較的の多量ノ肥料ヲ施シト雖壞土質ノ地ニ於ケルガ  
 如ク無數ノ増殖ヲ見ルコト能ハズタメハ魚兒ノ放養後二三日ニシテ悉ク攝食セラル、狀況ナリシヲ以テ附近ノ稻田苗代  
 肥料溜其他ヨリ「みじん」「ばえふら」「いとみ」等ノ天然餌料ヲ採集シテ之レガ補給ニ務メタルモ是レ亦本年ノ發生  
 ハ頗ル僅少ニシテ充分供給シ得ザリシタメ人工餌料トシテ乾蠶蛹粉あみ粉麥粉ノ三種ヲ混合シ之レヲ煮熟シテ糊狀トシ  
 魚兒ノ体長四五分ニ達スルヲ待ツテ之レヲ給與シタルモ体長微小ニシテ虛弱ナル魚兒ハ之レヲ攝食スルコト能ハズ隨テ成  
 育均一ナラズ体長ニ大小不同ヲ生ズルニ至リ弱者ハ強者ノ餌トナルモノ日々多數ニ上ル狀態ナリキ依テ數回採卵ヲ行ヒ  
 大小各別池ニ收容シ之レガ防止ニ務メタルモ天然餌料ノ不足ナルメテ豫定ノ成育ヲ見ル能ハズ之レニ加フルニ本年夏季  
 七、八月ニ於テハ近年稀ナル旱魃打續キタルタメ養魚場モ開始以來未曾有ノ減水トナリ池水ノ交換不十分ナリシタメ魚  
 兒ノ捕食力ヲ減少シ遂ニハ喰鳴ヲ惹起シ斃死スルモノ日々一池數百尾ヲ出シニ至リ上記ノ如ク二十五萬ノ孵化魚兒ヲ得  
 タルモ一寸以上ニ成育シタルモノ僅カニ六萬六千二百尾ニシテ孵化魚數ノ二十六%ニ相當シ成績比較的良好ナラザリキ

(ニ) 鯉 兒 配 布

鯉 兒 配 布 規 程 (大正五年六月二日 秋田縣告示第七十六號)

- 第一條 秋田縣水產試驗場ニ於テ採卵育養シタル鯉兒ハ本規程ニ依リ之レヲ配付ス
- 第二條 配付ノ鯉兒ハ体長約一寸ノモノニシテ價格ハ一尾二厘以内ニ於テ水產試驗場長之レヲ定ム

第三條 鯉兒ノ配付ヲ受ケタルモノハ左記各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一、養魚上相當ノ設備ヲ有シ養殖ヲ爲ス團體及個人

一、湖沼溜池等ヲ利用シテ養殖ヲ爲ス團體及個人

一、水産試験場長ニ於テ必要ト認メタルモノ

第四條 鯉兒ノ配布ヲ受ケントスルモノハ毎年四月末日迄ニ左記様式ニヨリ願書ヲ水産試験場長ニ差出スベシ

第五條 前條出願ニ對シ許可シタルトキハ同時ニ配付尾數配付期日及場所ヲ出願者ニ通知スベシ

第六條 前條ノ通知ヲ受ケタルモノハ代金ヲ水産試験場ニ納付ノ上前條ノ通知書及代金受領證ヲ提示シ鯉兒ノ配付ヲ受ケベシ

第七條 鯉兒ノ配付ヲ受ケタルモノハ十日以内ニ左記事項ヲ水産試験場長ニ報告スベシ

一、鯉兒運搬中ノ狀況

二、斃魚數

三、放養年月日及尾數

第八條 鯉兒放養後水質ノ變化其ノ他ノ原因ニ依リ著シキ被害アリト認ムルトキハ直チニ其狀況ヲ水産試験場長ニ報告スベシ

第九條 配付ヲ受ケタル鯉兒ハ一尺以上ニ至ラザレバ捕獲スルコトヲ得ズ

(様式)

鯉兒配付布願

一、申請尾數

何尾

二、放養場所地名

何郡何町村何番地(別紙略圖添付)

三、公私有ノ別

四、水面積

五、水深 平均何尺冬期何尺夏期何尺

六、池底ノ土質並藻類發生ノ多寡

七、冬期結氷並水面狀況

八、棲息セル魚類ノ重類

九、天然餌料ノ有無 小蝦蟲類其他發生ノ多寡

十、從來養魚ノ有無

右鯉兒配付規程ヲ遵守シ養魚致度候條御配付相成度候也

年 月 日

住 所

氏 名 印

秋田縣水産試験場長氏名殿

(ホ) 配布箇所

前掲ノ配布規程ニ依リ本年度ハ一尾壹厘ノ價格ヲ以テ配付スルコト、シタルニ全縣ヲ通ジテ配付出願シタルモノ四十八個所其數二十一萬千二百尾ノ多數ヲ算シタルモ既述ノ如ク成育尾數僅小ナリシヲ以テ夫々放養池ヲ實地調査シ適地ニ對シテハ出願ニヨリ左三十二個所へ七月二十六日ヨリ十月五日迄ノ間ニ六萬六千二百尾ヲ配付シ以テ本年度ノ事業ヲ終



本試驗ハ前年度ヨリノ繼續施行事業ニシテ松嶋灣産鰻兒一尾平均体重三匁(百二十五貫匁ヲ宮城縣ヨリ購入シ溜池利用養魚試驗魚種トシテ縣内各地ニ散在セル溜池中適地ヲ調査シ大正五年六月二十日及二十一日ノ兩日ニ亘リ左記二十一ヶ所ニ放養セリ

大正五年度鰻放養池一覽表

名 稱	放 養 地 積	放 養 數 量	管 理 者 住 所 氏 名
蛭藻沼	七町六反歩	五、〇〇〇	仙北郡金澤町中野格知青年團長 伊藤直温
造池	二百坪	二、〇〇〇	山本郡金岡村外岡 櫻庭武之助
角助沼	九十町歩	二〇、〇〇〇	山本郡森岳村々長 湊信一郎
中渡堤	七町五反歩	一〇、〇〇〇	同郡鶴川村鶴川 三浦 肝
粕毛沼	一町歩	一、〇〇〇	同郡粕毛村 佐々木隆吉
造池	四百十坪	二、〇〇〇	同郡澤目村々農會長 樋渡輔熙
淺見内沼	一町歩	二、〇〇〇	南秋田郡五城目町 小森儀三郎
溜池	四町歩	三、〇〇〇	同郡飯田川村 飯塚農友會

合 計 六六、二〇〇 三十二個所

五、鰻 兒 移 殖

名 稱	放 養 地 積	放 養 數 量	管 理 者 住 所 氏 名
造池	三百五十坪	一〇、〇〇〇	北秋田郡阿仁合町小様 加賀文之丞
桂坂堤	一町七反歩	七、〇〇〇	同郡阿仁前田 青 年 團
笹山十四番溜池	六町六反歩	七、〇〇〇	河邊郡豐岩村 農 會
笹山十三番溜池	三町九反歩	三、〇〇〇	同 同
蛇野池	二百五十坪	二、五〇〇	雄勝郡湯澤町長 舟田準之助
高梨池	三反歩	六、〇〇〇	仙北郡高梨村 武田勇助
上荒澤池	一町歩	一、〇〇〇	同郡外小友村 佐々木 尙 治
乙越沼	二十七町歩	二〇、〇〇〇	同郡強首村々長 根岸秀彬
浮嶋沼	五町五反歩	五、〇〇〇	由利郡仁賀保養魚組合
後山沼	一町三反歩	五、〇〇〇	同 上
上山沼	三町六反歩	五、〇〇〇	同 上
六本木沼	四町三反歩	五、〇〇〇	同 上
空素沼	二町歩	三、五〇〇	秋田縣水産試驗場八柳養魚場
合 計		一二五、〇〇〇	二十一ヶ所

講 習 講 話

本年度講習會及講話會ヲ開設セシ漁村並ニ其ノ狀況左ノ如シ

- 三、會 期 大正五年十一月二十七日ヨリ同月二十九日マテ
- 四、會 場 平澤町夜學會場
- 五、講習時間 午前九時ヨリ十二時マテ 午後一時ヨリ四時マテ
- 六、科 目 漁撈 法制
- 七、修得人員 目 百十一名
- 一、主 催 者 西目村講習會
- 二、區 域 由利郡漁業組合聯合會
- 三、會 期 西目村 大正六年一月二十六日ヨリ同二十八日迄
- 四、會 場 西目村海士剝分校
- 五、講習時間 午前九時ヨリ十二時マテ 午後一時ヨリ四時マテ
- 六、科 目 漁撈
- 七、修得人員 目 四十五名
- 八、聽講人員 目 二十二名
- 一、主 催 者 濱口村講習會
- 二、區 域 山本郡濱口村漁業組合
- 三、會 期 濱口村 大正六年二月十一日ヨリ同月十三日マテ
- 四、會 場 濱田村尋常小學校

- 一、主 催 者 鰻延繩講習會
- 二、區 域 南秋田郡役所
- 三、會 期 大久保村 大正五年七月二十五日ヨリ同月二十七日マテ
- 四、會 場 大久保村小學校
- 五、講習時間 午後四時ヨリ正午マテ實地練習午後一時ヨリ同四時マテ講演
- 六、科 目 鰻延繩漁業
- 七、修得人員 目 十六名
- 一、主 催 者 澤目村講習會
- 二、區 域 山本郡澤目村漁業組合
- 三、會 期 澤目村 大正五年八月十八日
- 四、會 場 澤目村水澤民家
- 五、講習時間 午後二時ヨリ同五時二十分マテ
- 六、科 目 漁撈
- 七、聽 講 數 目 二十五名
- 一、主 催 者 平澤町講習會
- 二、區 域 由利郡漁業組合聯合會
- 平澤町

- 七、修得人員 七十名
- 八、聽講人員 三十二名
- 一、主 催 者 八 森 村 講 習 會
- 二、區 域 山本郡八森村漁業組合
- 三、會 期 八森村 大正六年二月十九日ヨリ同月二十一日マテ
- 四、會 場 八森村觀海小學校
- 五、講 習 時 間 午前九時ヨリ十二時マテ 午後一時ヨリ五時マテ
- 六、科 目 漁撈 製造 養殖
- 七、修 得 人 員 四十七名
- 八、聽 講 人 員 十七名

- 五、講 習 時 間 午前十二時マテ 午後一時ヨリ四時マテ
- 六、科 目 漁撈 製造 養殖
- 七、修得人員 六十六名
- 八、聽講人員 四十五名
- 澤 目 村 講 話 會
- 一、主 催 者 山本郡沼田、澤目兩漁業漁組合
- 二、區 域 澤目村
- 三、會 期 大正六年二月十五日
- 四、會 場 澤目村小學校
- 五、講 話 時 間 午前九ヨリ十二時マテ 午後一時ヨリ五時マテ
- 六、科 目 漁撈 製造 養殖
- 七、聽 講 人 員 三十八名
- 岩 館 村 講 習 會
- 一、主 催 者 山本郡岩館村漁業組合
- 二、區 域 岩館村
- 三、會 期 大正六年二月十六日ヨリ同月十八日マテ
- 四、會 場 岩館村小學校
- 五、講 習 時 間 午前九時ヨリ十二時マテ 午後一時ヨリ五時マテ
- 六、科 目 漁撈 製造 養殖

調査  
卜  
統計



調査

一、大羽鰻漁業調査

本縣ニ於ケル本年大羽鰻漁況ハ一般ニ先年ニ比シ、漁獲全額及尾數ニ於テ約一倍半ノ好況ヲ得是レガ製造モ大ニ漁者ノ注目スル所トナリ本縣水産界ニ於テ確實ナル漁業ノ一トシテ益々發展ノ機運ニ達シ而シテ該漁ニ從事セル船數全縣下ヲ通ジ三百四十一隻其水揚高ハ拾壹萬九千餘圓、六千四百六十六萬九千尾餘ニテ一隻平均約參百五拾圓、十八萬尾ヲ算スルニ至リソノ製造トシテハ總テ搾粕ニシテ五十六ヶ所コノ製造高ハ七千二百三十七石、採油量五百七十一石四斗ニ及ビ之ヲ時下ニ換算スルトキハ搾粕約九萬七千五百圓、魚油七千五百拾餘圓即チ拾萬四千六百五拾餘圓トス之レガ原料トシテ使用セラレタル尾數ハ四千二百二十五萬尾餘ナリトス

漁期ハ全縣下殆ンド一定シ八十八夜四日前即チ四月二十七八日頃ヨリ約三十五日間ニシテ就中十五日ヨリ十八日迄ヲ最盛期トセリ

漁具ハ綿糸網ニシテ網目一寸四分五厘ヨリ一寸六分迄トシ網丈ハ百五十日ヨリ六百目マデナルモ三百目掛ナルモノハ最も多ク使用セラレ又最も適當セリ長サモ三十三間ヨリ百間切ナルモ五十間切ノモノ最も多ク使用セラレ尙浮子方ニアリテハ下ケ糸ヲ有スルモノト有セザルモノトアリ前者ニアリテモ長サ一尺ヨリ六尺迄ノモノアリ又後者ニアリテモ二寸五分目十五掛ノ網地ヲ附シ下ケ糸ノ如キ効用ヲナラシムルモノアリ漁船ハ五尋一尺ヨリ八尋三尺迄ニシテ七尋三尺ノモノ最も多ク使用セラレ漁夫ハ五人ヨリ七人乗トシ網ハ十二反ヨリ三十反ヲ用ルモ三十間切ナレバ二十二三反ノモノ最も多ク殊ニ大型ノ改良漁船ハ其結果極メテ良好ナリトス

漁場ハ本縣沿岸到處ニシテ初期ハ七八十尋立ニテ之レヨリ漸次沿岸ニ迫遊シ最盛期ニ於テハ二十尋内外ノ處ハ好漁場トシテ終期ニ至レバ又漸次沖合ニ去ル





町村部落		出漁船數		水揚金額		漁獲尾數		一隻漁獲高		備考	
町村部落	計	出漁船數	計	水揚金額	計	最多	最少	平均	備考		
下濱村	計	三	一七	四七	三三〇,〇〇〇	三〇〇	一八〇	二四〇	一尾二厘		
桂根	計	二	二二	五〇	二八〇,〇〇〇	三〇〇	二六〇	二八〇	同		
新屋町	計	五	三	一五〇	七五〇,〇〇〇	四〇〇	二〇〇	三〇〇	一尾平均二厘		
濱田村	計	九	三	三二〇	三二〇,〇〇〇	六〇〇	二六〇	三六〇	同		
中村	計	五	三	一五〇	七五〇,〇〇〇	四〇〇	二〇〇	三〇〇	大半網具流失ノ爲ノ		
瀧ノ下	計	三	三	三二〇	三二〇,〇〇〇	六〇〇	二六〇	三六〇	同		
通計	計	一七	一七	四七	三三〇,〇〇〇	三〇〇	一八〇	二四〇			

三、河邊郡

町村部落	出漁船數	水揚金額	漁獲尾數	一隻漁獲高	備考
通計	一四	四、五七	一、一〇〇,〇〇〇	一、二〇〇	二九〇
計	一七	四、二五	一、一〇〇,〇〇〇	四〇〇	二五〇

町村部落	出漁船數	水揚金額	漁獲尾數	一隻漁獲高	備考
土崎町	一七	四、二五	二、一〇〇,〇〇〇	四〇〇	二五〇
下新城村	計	四	二四〇,〇〇〇	一〇〇	三〇
中野	計	四	二四〇,〇〇〇	一〇〇	三〇
天王村	計	二	三八〇,〇〇〇	二〇〇	一八〇
上川	計	五	一、二五〇,〇〇〇	二六〇	二四〇
江川	計	三	四〇〇,〇〇〇	三〇〇	二八〇
脇本	計	一	三〇〇,〇〇〇	一八〇	三〇〇
脇本	計	一	三〇〇,〇〇〇	一八〇	三〇〇
船川町	計	一〇	一、一〇〇,〇〇〇	一八〇	一三〇
金船	計	一	八〇,〇〇〇	一〇〇	一〇〇
羽立	計	一	三〇〇,〇〇〇	一八〇	二〇〇
船川	計	五	六〇〇,〇〇〇	二〇〇	二〇〇
平澤	計	四	四〇〇,〇〇〇	二〇〇	二〇〇
增川	計	四	七、三七	三五〇	二五〇
女川	計	五	二八〇,〇〇〇	二〇〇	二〇〇
臺嶋	計	三	八五〇,〇〇〇	二〇〇	二〇〇
通計	一四	四、二五	一、一〇〇,〇〇〇	一、二〇〇	二九〇
計	一七	四、二五	一、一〇〇,〇〇〇	四〇〇	二五〇

八森村 同	岩館村 計	製造所 部	製造者	榨油高箱	採油量	釜數	榨件數	歩留
瀧ノ間 上	岩館	津森縣	文長	四〇〇石	三六〇石	一〇	二〇	一石ニ付 六千尾
武田 豐次	武田 仲藏		一	四〇〇	三六〇	一〇	二〇	一石ニ付 五千二百尾
				二二	八九七	三	五	同 五千三百尾

一、本 山 郡 各 部 落 別 製 造 表

通 計	上濱村 計	象潟町 計	金浦町 計
小砂川	象	金浦	
八九	五五	六六	三三
三六、七五、六〇〇	四、八〇〇	四、八〇〇	一、四〇〇
一、〇〇〇	一、〇〇〇	四〇〇	五〇〇
一四〇	八〇〇	二八〇	三八〇
四三九	九六〇	三〇〇	四五〇
高内小船六隻ハ平均漁獲		一厘七毛トス	二厘トス

平澤町 計	西目村 計	本庄町 計	松ヶ崎村 計	道川村 計
鈴平	海士	本庄	松ヶ崎	内道
二二	九	九九	二二	二五
四、〇五〇	一、四二〇	三、四二〇	七二〇	一、二六〇
五〇〇	三六〇	五四〇	四〇〇	二四〇
一四〇	二二〇	三〇〇	二八〇	一九〇
四四〇	二四〇	三六〇	三五〇	一七〇
四厘二厘一毛	二厘 網具流失	一厘二毛二絲 内二隻新潟船トス	同	一厘八毛



町製造所 村部在 所在地	製造者	製造高	採油量	釜數	搾梓數	歩留
道川村	今野三七藏	四	四・九	四	四	一石五千六百尾
本庄町	金外林藏	一〇	一・一	一	一	一石五千尾
計	計	五・六	六・一	五	五	一石五千五百尾
西目村	佐々木市之助	七〇	九・七	六	一〇	同
計	計	一〇〇	四・二	三	四	
西目村	須藤權吉	七〇	七・〇	三	二	
計	計	七〇	一三・九	九	二	
平澤町	村上德五郎	五〇	五・〇	二	二	一尾 七夕八分

四、由利郡

町製造所 村部在 所在地	製造者	製造高	採油量	釜數	搾梓數	歩留
新屋町	高嶋長之助	四	三・〇	三	五	一石五千八百尾
濱田村	石黒三太郎	七	四・五	二	四	五百六百尾
計	計	一三	七・五	四	二	
通計	通計	一七〇	二一・五	七	一	

三、河邊郡

町製造所 村部在 所在地	製造者	製造高	採油量	釜數	搾梓數	歩留
北浦町	伊藤助吉	二五	一五・〇	四	四	一石 六千尾
同	本山藤次	三〇	三〇・〇	二	二	
北浦町	戸嶋藤次郎	四七	三〇・〇	九	二	一石 六千尾
同	相澤吉太郎	八〇	一・八	二	二	
島	福嶋分四郎	一五〇	一八・〇	三	三	一石 五千五百尾
天王村	藤原五兵衛	三〇	二・五	二	二	一石 五千四百尾
計	計	一〇〇	六七・一	二	二	
下出戸	加賀谷某	二	〇・八	三	一	一石 五千尾
上出戸	菊地勘七	一〇	〇・三	一	一	一石 六千尾
計	計	一二	三・六	四	四	
土崎町	問屋	三	八・〇	四	四	
同	相染新田	二〇	六・〇	三	三	一石 五千八百尾
計	計	二二	一四・〇	七	七	
通計	通計	二七六	一七五・二	五八	六	

象潟町	同	象潟	同上	中村甚八	二五〇	二五〇	二	四	同	一石 五千五百尾
金浦町	同	金浦	同上	佐々木久名作	一〇〇	九〇〇	二	二	一石 五千八百尾	
計	同				一、〇五〇	八五〇	二	三		
上濱村	計	小砂川	同上	土門三郎次	四二〇	四〇〇	四	八	一石 五千六百尾	
象潟町	計	同上	同上	中村作五郎	二五〇	二五〇	二	四		
計	同上				七、三三七	七、三三七	一五	一九		
象潟町	計	同上	同上	中村甚八	二五〇	二五〇	二	四		
金浦町	計	同上	同上	佐々木久名作	一〇〇	九〇〇	二	二		
計	同上				一、〇五〇	八五〇	二	三		
上濱村	計	同上	同上	土門三郎次	四二〇	四〇〇	四	八	一石 五千六百尾	
象潟町	計	同上	同上	中村作五郎	二五〇	二五〇	二	四		
計	同上				七、三三七	七、三三七	一五	一九		

参考 百石製造費 約參百圓

(但シ釜枠ヲ除キ其他一切新調トス)

以上

### 二、養魚適地調査

本縣ハ湖沼溜池ニ富ミ一萬坪以上ノ湖沼六十五個所其他灌溉用溜池ノ數ニ至リテハ殆ンド算スルニ遑アラズ然レドモ是等無數ノ池沼ハ徒ラニ蘆葦水藻ノ叢生スルニ任セ利用ノ途ノ講ゼラレツ、アルモノ極メテ少ナシ本場ハ此等水面利用ノ目的ニヨリ年々試験事業トシテ鯉鰻ヲ配布シ或ハ鱒族ノ移殖ヲ計リ極力事業ノ發達ニツキ當業者ノ指導誘掖ニ務メツ、アリ而シテ元來養魚ノ事業モ亦陸上地所ノ耕作物ニ於ケル如ク適不適アリテ湛水ノ地悉ク養魚ニ適スルニ非ラズ縱令水面積廣漠ナリト雖モ其ノ狀況ト要素ハ養魚ニ適セザル池沼ニアリテハ何種ノ魚類ヲ問ハズ又々如何ニ多額ノ資力ヲ費スモ其成功ト收利ヲ見ル能ハサルナリ故ニ本場ニテハ各地湖沼溜池ヲ實地調査シ其ノ適否ニ關シ充分調査スルハ緊要ノ急務ナルヲ想ヒ殊ニ本年度ヨリノ鯉兒配布ハ有價トスル規程ニ改メタルニ依リ當業者ヨリ鯉兒配布ノ申請アリタル場合ニハ特ニ場員ヲシテ實地調査セシメ不適ノ地ニハ配布ヲ許サズ養魚ノ中止ヲ勸告セリ尙將來モ此ノ養魚基本的調査ヲ進捗シ縣内各地ニ及ボシ以テ確實ナル養魚ノ普及ヲ計ラントス

本年度ニ於ケル調査ノ個所ハ五郡二十九ヶ所ニシテ其ノ概要左表ノ如シ

### 池沼溜池養殖適地調査表

池沼	管理入住所氏名	南秋田郡馬川村在郷軍人分會
池沼	官私有ノ別	官有地
池沼	官私有ノ別	官有地
池沼	積	二個連接シ上段二反、下段二反
池沼	水深	約二尺
池沼	底質	水色清濁ノ模様
池沼	注水路ノ状態	底質泥土沼畔ヨリ深シ
池沼	排水路ノ状態	上段ノ池ハ田地ヨリノ排水注入スル外附近ヨリ浸透水ノ注入スルモノアリ下段ノモノハ上段ノ池ヨリ注入ス
池沼	排水路ノ状態	立樋一外ニ巾二尺ノ排水溝アリ





池	沼	狀	態	摘	池
水色清濁ノ模様 深 七尺	底質池底ノ状態	排水路ノ状態 湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無 水生水草ノ種類多寡 棲息魚族 從來養魚ノ有無 自然餌料ノ有無 捕獲ノ便否	山間ノ池沼ニシテ餌料多カラザ レバ六百尾位ノ放養ハ適當ナル ベシ	水色清濁ノ模様 深 茶褐色ヲ呈ス 底質泥土淺ニシテ泥深シ 北方ヨリ澤水田地ノ排水等注入 南方ニ堤防アリ堤防ノ東端ノ堰 ニヨリ排水ス
水色清濁ノ模様 深 七尺	底質池底ノ状態	排水路ノ状態 湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無 水生水草ノ種類多寡 棲息魚族 從來養魚ノ有無 自然餌料ノ有無 捕獲ノ便否	山間ノ池沼ニシテ餌料多カラザ レバ六百尾位ノ放養ハ適當ナル ベシ	水色清濁ノ模様 深 茶褐色ヲ呈ス 底質泥土淺ニシテ泥深シ 北方ヨリ澤水田地ノ排水等注入 南方ニ堤防アリ堤防ノ東端ノ堰 ニヨリ排水ス
水色清濁ノ模様 深 七尺	底質池底ノ状態	排水路ノ状態 湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無 水生水草ノ種類多寡 棲息魚族 從來養魚ノ有無 自然餌料ノ有無 捕獲ノ便否	山間ノ池沼ニシテ餌料多カラザ レバ六百尾位ノ放養ハ適當ナル ベシ	水色清濁ノ模様 深 茶褐色ヲ呈ス 底質泥土淺ニシテ泥深シ 北方ヨリ澤水田地ノ排水等注入 南方ニ堤防アリ堤防ノ東端ノ堰 ニヨリ排水ス
水色清濁ノ模様 深 七尺	底質池底ノ状態	排水路ノ状態 湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無 水生水草ノ種類多寡 棲息魚族 從來養魚ノ有無 自然餌料ノ有無 捕獲ノ便否	山間ノ池沼ニシテ餌料多カラザ レバ六百尾位ノ放養ハ適當ナル ベシ	水色清濁ノ模様 深 茶褐色ヲ呈ス 底質泥土淺ニシテ泥深シ 北方ヨリ澤水田地ノ排水等注入 南方ニ堤防アリ堤防ノ東端ノ堰 ニヨリ排水ス

池	沼	狀	態	摘	池
水色清濁ノ模様 深 七尺	底質池底ノ状態	排水路ノ状態 湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無 水生水草ノ種類多寡 棲息魚族 從來養魚ノ有無 自然餌料ノ有無 捕獲ノ便否	山間ノ池沼ニシテ餌料多カラザ レバ六百尾位ノ放養ハ適當ナル ベシ	水色清濁ノ模様 深 茶褐色ヲ呈ス 底質泥土淺ニシテ泥深シ 北方ヨリ澤水田地ノ排水等注入 南方ニ堤防アリ堤防ノ東端ノ堰 ニヨリ排水ス
水色清濁ノ模様 深 七尺	底質池底ノ状態	排水路ノ状態 湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無 水生水草ノ種類多寡 棲息魚族 從來養魚ノ有無 自然餌料ノ有無 捕獲ノ便否	山間ノ池沼ニシテ餌料多カラザ レバ六百尾位ノ放養ハ適當ナル ベシ	水色清濁ノ模様 深 茶褐色ヲ呈ス 底質泥土淺ニシテ泥深シ 北方ヨリ澤水田地ノ排水等注入 南方ニ堤防アリ堤防ノ東端ノ堰 ニヨリ排水ス
水色清濁ノ模様 深 七尺	底質池底ノ状態	排水路ノ状態 湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無 水生水草ノ種類多寡 棲息魚族 從來養魚ノ有無 自然餌料ノ有無 捕獲ノ便否	山間ノ池沼ニシテ餌料多カラザ レバ六百尾位ノ放養ハ適當ナル ベシ	水色清濁ノ模様 深 茶褐色ヲ呈ス 底質泥土淺ニシテ泥深シ 北方ヨリ澤水田地ノ排水等注入 南方ニ堤防アリ堤防ノ東端ノ堰 ニヨリ排水ス
水色清濁ノ模様 深 七尺	底質池底ノ状態	排水路ノ状態 湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無 水生水草ノ種類多寡 棲息魚族 從來養魚ノ有無 自然餌料ノ有無 捕獲ノ便否	山間ノ池沼ニシテ餌料多カラザ レバ六百尾位ノ放養ハ適當ナル ベシ	水色清濁ノ模様 深 茶褐色ヲ呈ス 底質泥土淺ニシテ泥深シ 北方ヨリ澤水田地ノ排水等注入 南方ニ堤防アリ堤防ノ東端ノ堰 ニヨリ排水ス

池	沼	池	管理人所氏名	池沼所在地	官私有別	水深	底質	注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無	
水	水	水	河邊郡豊岩村小山青年團長 近藤龜太郎	豊岩村小山澤堤	官有地	一町八反歩	深最部一丈五尺	底質池底ノ状態 清水ナリ	注水路ノ状態 三澤水アリテ溜池ニ注入ス	排水路ノ有無 沈樋二個	湧水ノ有無 ナシ	汎濫乾涸ノ有無 ナシ

水 汎濫乾涸ノ有無 温水性  
 水生草ノ種類多寡 ナシ  
 棲息魚族 改修後間モナキ故發生殆ンド稀  
 從來養魚ノ有無 ナシ  
 自然餌料ノ有無 小蝦多シ  
 捕獲ノ便否 落水捕獲ノ便アリ  
 配布申請尾數 二、五〇〇  
 摘 要 中央耕地整理組合ノ經營セントスル事業ニシテ溜池ノ状態ヨリ成績顯著ナルベシ

池	沼	池	管理人所氏名	池沼所在地	官私有別	水深	底質	注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無	
水	水	水	河邊郡豊岩村石田坂青年團長 櫻田小一郎	豊岩村百三段 館ノ澤五十二番 石田坂字 山田澤二十六番	官有地	二個所總計八町四畝歩	深 夏季五尺 冬季一丈三尺	水色清濁ノ模様 混濁色	注水路ノ状態 上段ノモノハ三澤ノ注入ヲ受ケ下段ノモノハ三澤水ト上段溜池ノ排水ノ注入スルアリ	排水路ノ有無 上段溜池建樋一個 下段溜池建樋二個	湧水ノ有無 ナシ	汎濫乾涸ノ有無 ナシ

水 水生草ノ種類多寡 菱、石生藻  
 棲息魚族 鮒、小許産スルノミニシテ他魚ノ棲息スルナシ  
 從來養魚ノ有無 以前鯉放養セルコトアリ成績良好ナリシト  
 自然餌料ノ有無 小蝦、ヨコノミ棲息多シ  
 捕獲ノ便否 落水ノ便アリ  
 配布申請尾數 五、〇〇〇  
 摘 要 水稍々清澄ニ過キ餌料不足ノ觀アリ二千尾位放養スルヲ適當ト認ム

池	沼	池	管理人所氏名	池沼所在地	官私有別	水深	底質	注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無
水	水	水	河邊郡豊島村戸島青年團長 岡部正吉	戸島大堤山一番溜池	官有地	一町五反歩	深 冬季八尺 夏季六尺	水色清濁ノ模様 混濁褐色	注水路ノ有無 底質池底ノ状態 泥土	排水路ノ有無 ナシ	汎濫乾涸ノ有無 ナシ

水 汎濫乾涸ノ有無 温水性  
 水生草ノ種類多寡 ナシ  
 棲息魚族 鮒、鯉、うぐい  
 從來養魚ノ有無 ナシ  
 自然餌料ノ有無 溝ヨリ餌蟲ノ流入多シ  
 捕獲ノ便否 落水スルヲ得ルモ泥深ク捕獲ニ困難ナリ  
 配布申請尾數 二〇、〇〇〇  
 摘 要 二田青年團ノ共同事業ナレド水面除リニ廣大ナルヲ以テ放養後十分魚ノ逃過ヲ防グ必要アリ且捕獲モ亦容易ナラザレバ其點ニ付キ研究スル要アルベシ  
 放養適當尾數二萬尾

池	沼	池	管理人所氏名	池沼所在地	官私有別	水深	底質	注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無	
水	水	水	河邊郡豊島村北野田高屋 近友次郎	北野田高屋藥師澤堤及戸島館堤	官有地	藥師澤堤一町歩 戸島館堤五十反	深 冬季二丈 夏季二丈 夏季一丈五尺 夏季四尺	水色清濁ノ模様 兩池共ニ混濁セル褐色ヲ呈ス	注水路ノ有無 底質池底ノ状態 粘土質	排水路ノ有無 澤水ノ注入各一ヶ所宛アリ	湧水ノ有無 ヨリ排水ス	汎濫乾涸ノ有無 ナシ

水 汎濫乾涸ノ有無 温水性  
 水生草ノ種類多寡 蓴菜、河骨  
 棲息魚族 鯉、鮒、にこい  
 從來養魚ノ有無 七年以前鯉放養セルコトアリ滿三年ニシテ一尺五寸ニ發育セリ  
 自然餌料ノ有無 蝦極メテ多シ  
 捕獲ノ便否 落水捕獲ノ便アリ  
 配布申請尾數 三、〇〇〇  
 摘 要 溜池状態養鯉ニ適シ三千尾ヲ放養セバ成績ヲ擧ゲ得ベシト認ム

狀	ノ	沼	池	管理 人住所氏名	池 沼所在地	態		摘 要
						從來養魚ノ有無	配布申請尾數	
水	湧水ノ有無	排水路ノ狀態	底質池底ノ狀態	山本郡能代港町上後町松野一得	官私有ノ別	從來養魚ノ有無	なし	御大典紀念ノ村事業トシテ經營スルモノニシテ溜池ノ狀態雜草ノ繁茂著シク養魚上不適ナルモ改修ノ豫定ナレバ事業ノ主旨ヲ贊シ三千尾ヲ配付可ナリト認ム
水	湧水ノ有無	排水路ノ狀態	底質池底ノ狀態	山本郡東雲村朴瀬丑越青年團長	官私有ノ別	從來養魚ノ有無	なし	池水ノ交換充分ナラザル爲メ水質良好ナラザルモ餌料多ク且ツ池底ニ多少ノ湧水アリ尙人家ニ接近スルヲ以テ管理ニ便ナレバ千尾内外ヲ放養セバ効果ヲ擧ゲ得ベシ
水	湧水ノ有無	排水路ノ狀態	底質池底ノ狀態	淺理與市	官私有ノ別	從來養魚ノ有無	なし	池水ノ交換充分ナラザル爲メ水質良好ナラザルモ餌料多ク且ツ池底ニ多少ノ湧水アリ尙人家ニ接近スルヲ以テ管理ニ便ナレバ千尾内外ヲ放養セバ効果ヲ擧ゲ得ベシ
水	湧水ノ有無	排水路ノ狀態	底質池底ノ狀態	東雲村朴瀬字中堤下五十三番溜池	官私有ノ別	從來養魚ノ有無	なし	池水ノ交換充分ナラザル爲メ水質良好ナラザルモ餌料多ク且ツ池底ニ多少ノ湧水アリ尙人家ニ接近スルヲ以テ管理ニ便ナレバ千尾内外ヲ放養セバ効果ヲ擧ゲ得ベシ

狀	ノ	沼	池	管理 人住所氏名	池 沼所在地	態		摘 要
						從來養魚ノ有無	配布申請尾數	
水	湧水ノ有無	排水路ノ狀態	底質池底ノ狀態	河邊郡川添村農會長齋藤久一郎	官私有ノ別	從來養魚ノ有無	なし	溜池ノ狀況兩所共ニ養鯉ニ適シ毎年一萬尾内外ヲ放養スルモ差支ナキ狀態ナレバ申請尾數五〇〇〇尾ノ配付ヲ可トス
水	湧水ノ有無	排水路ノ狀態	底質池底ノ狀態	河邊郡四ツ小屋村々長加藤繁藏	官私有ノ別	從來養魚ノ有無	なし	秋季迄ハ苗代ニ於テ飼養シ落水後ハ當溜池ニ放養スルモノニシテ以前飼養ノ經驗モアレバ三千尾配布支障ナシト認ム
水	湧水ノ有無	排水路ノ狀態	底質池底ノ狀態	四ツ屋村末戸松澤字坂ノ上五番溜池	官私有ノ別	從來養魚ノ有無	なし	溜池ノ狀況兩所共ニ養鯉ニ適シ毎年一萬尾内外ヲ放養スルモ差支ナキ狀態ナレバ申請尾數五〇〇〇尾ノ配付ヲ可トス
水	湧水ノ有無	排水路ノ狀態	底質池底ノ狀態	河邊郡四ツ小屋村々長加藤繁藏	官私有ノ別	從來養魚ノ有無	なし	溜池ノ狀況兩所共ニ養鯉ニ適シ毎年一萬尾内外ヲ放養スルモ差支ナキ狀態ナレバ申請尾數五〇〇〇尾ノ配付ヲ可トス

池	沼	池	管理人所氏名	池沼所在地	官私有別	水深	水質	底質	注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無	水生植物ノ種類	從來養魚ノ有無	棲息魚類	配布申請尾數
			山本郡響村切石 佐藤卯吉	響村切石島坂堤	私有地	平均八尺	水色清濁ノ模様 稍々赤黒色ヲ呈ス	底質池底ノ状態 平坦ニシテ中央部ニ向ツテ深ク泥深シ	注水路ノ状態 ナシ(深水ノ滲透セルモノナルベシ)	排水路ノ状態 立樋一個外ニ非常水路一アリ	湧水ノ有無 ナシ	汎濫乾涸ノ有無 ナシ	發生水草ノ種類多寡 蕁菜最モ多ク外ニ菱、河骨、多	從來養魚ノ有無 ナシ	鯽、鯿、鮒	五、〇〇〇

池	沼	池	管理人所氏名	池沼所在地	官私有別	水深	水質	底質	注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無	水生植物ノ種類	從來養魚ノ有無	棲息魚類	配布申請尾數
			山本郡鶴川村字大曲 佐藤純爾	大曲字東家ノ下堤	私有地	一反五畝歩	水色清濁ノ模様 稍々清澄ナリ	底質池底ノ状態 池底平坦ニシテ林叢生ス	注水路ノ状態 注水路一ヶアレドモ餌量少ナシ	排水路ノ状態 排水路一ヶアリ	湧水ノ有無 ナシ	汎濫乾涸ノ有無 乾涸ノ憂アリ	發生水草ノ種類多寡 萩全面ニ叢生ス	從來養魚ノ有無 ナシ	鯽、鯿、鮒	二、〇〇〇

池	沼	池	管理人所氏名	池沼所在地	官私有別	水深	水質	底質	注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無	水生植物ノ種類	從來養魚ノ有無	棲息魚類	配布申請尾數
			山本郡鹿渡村新屋敷 兒玉米吉	新屋敷字狐野鮫堤	官有地	最深二丈 平均七尺	水色清濁ノ模様 稍々濁色ヲ呈ス	底質池底ノ状態 泥深ク中央部ニ深ク周圍ニ淺シ	注水路ノ状態 巾三尺ノ水路アリ四時斷水スルコトナシ	排水路ノ状態 巾六尺長七十間ノ堤防ノ設アリ	湧水ノ有無 ナシ	汎濫乾涸ノ有無 ナシ	發生水草ノ種類多寡 池畔ハ蘆葦ノ發生多ク池底ニハ菱多シ	從來養魚ノ有無 ナシ	鯽、鯿、鮒	五、〇〇〇

池	沼	池	管理人所氏名	池沼所在地	官私有別	水深	水質	底質	注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無	水生植物ノ種類	從來養魚ノ有無	棲息魚類	配布申請尾數
			山本郡金岡村和田 中田定吉	金岡村和田堤	官有地	平均七尺	水色清濁ノ模様 赤濁色ヲ呈ス	底質池底ノ状態 平坦ニシテ排水部ニ向ツテ深シ	注水路ノ状態 注ノ澤水三アリ	排水路ノ状態 沈樋一個所及水路一ヶ所アリ	湧水ノ有無 ナシ	汎濫乾涸ノ有無 ナシ	發生水草ノ種類多寡 菱、カワホネ等ノ發生アルモ多	從來養魚ノ有無 ナシ	鯽、鯿、鮒	三、〇〇〇

<p>摘 要</p> <p>〔池淺ク全面ニ葎養生シ養魚ノ望ナシ〕</p>		<p>池 沼 所 在 地</p> <p>〔山本郡響村切石青年團長 金野俊藏 切石木戸ヶ澤堤〕</p>	<p>官 有 地</p> <p>約二町歩</p>	<p>水 面 積</p> <p>最深部一丈二尺</p>	<p>池 水</p> <p>水色清濁ノ模様</p> <p>稍々赤濁色ヲ呈ス</p>	<p>沼 底 質 池 底 ノ 状 態</p> <p>底質粘土ニシテ比較的平坦ナリ</p>	<p>注 水 路 ノ 状 態</p> <p>澤水注入スルモノ二個アリ</p>	<p>排 水 路 ノ 状 態</p> <p>立樋一個及非常水路一アリ</p>	<p>湧 水 ノ 有 無</p> <p>澤水ノ湧水少許注入ス</p>	<p>水 温</p> <p>温水</p>	<p>汎 濫 乾 涸 ノ 有 無</p> <p>ナシ</p>	<p>發 生 水 草 ノ 種 類 多 寡</p> <p>菱稍々生ズ</p>	<p>棲 息 魚 族</p> <p>鮒、鰍</p>	<p>從 來 養 魚 ノ 有 無</p> <p>以前一回鯉放養セルコトアリ成績良好ナリ</p>	<p>自 然 餌 料 ノ 有 無</p> <p>小蝦ノ棲息多ク年産額十石ニ及ブト云フ</p>	<p>捕 獲 ノ 便 否</p> <p>落水捕獲スルヲ得</p>	<p>配 布 申 請 尾 數</p> <p>五、〇〇〇</p>	<p>摘 要</p> <p>〔青年團ノ共同事業ニシテ池ノ狀態亦養鯉ニ適シ三千尾位ノ放養ハ適當ト認ム〕</p>	<p>管 理 人 住 所 氏 名</p> <p>〔山本郡鹿渡村天瀬川種澤 島山千代藏〕</p>
--------------------------------------	--	--	--------------------------	-----------------------------	---	--	--	--	------------------------------------	----------------------	--------------------------------	---------------------------------------	---------------------------	---	--	----------------------------------	---------------------------------	--	---

<p>池 沼 所 在 地</p> <p>〔天瀬川宇種澤 家之下堤 百二十一番 八十二番〕</p>		<p>官 有 地</p> <p>一町歩、三反歩</p>	<p>水 面 積</p> <p>平均八尺</p>	<p>池 水</p> <p>水色清濁ノ模様</p> <p>澄メル褐色ヲ呈ス</p>	<p>沼 底 質 池 底 ノ 状 態</p> <p>底質粘土ニシテ中央部ハ最深シ</p>	<p>注 水 路 ノ 状 態</p> <p>各々一個所ノ注水路アリ</p>	<p>排 水 路 ノ 状 態</p> <p>各々一ヶ宛ノ排水立樋アリ</p>	<p>湧 水 ノ 有 無</p> <p>ナシ</p>	<p>水 温</p> <p>温水</p>	<p>汎 濫 乾 涸 ノ 有 無</p> <p>ナシ</p>	<p>發 生 水 草 ノ 種 類 多 寡</p> <p>藻類多シ</p>	<p>棲 息 魚 族</p> <p>鮒</p>	<p>從 來 養 魚 ノ 有 無</p> <p>從來鯉兒ヲ放養セルコト二回共ニ成績ヨシ</p>	<p>自 然 餌 料 ノ 有 無</p> <p>蝦類ノ棲息多シ</p>	<p>捕 獲 ノ 便 否</p> <p>落水捕獲及曳網共ニ便ナリ</p>	<p>配 布 申 請 尾 數</p> <p>一〇、〇〇〇</p>	<p>摘 要</p> <p>〔種澤部落民ノ共同經營事業ニシテニク所合計三千位ヲ放養スルヲ適當ト認ム〕</p>	<p>管 理 人 住 所 氏 名</p> <p>〔山本郡八森村字本館 齋藤専一〕</p>
--	--	-----------------------------	--------------------------	---	--	---------------------------------------	--	----------------------------	----------------------	--------------------------------	--------------------------------------	-------------------------	---	-------------------------------------	--------------------------------------	----------------------------------	--	--

<p>池 水</p> <p>水色清濁ノ模様</p> <p>混濁色ヲ呈ス</p>		<p>沼 底 質 池 底 ノ 状 態</p> <p>平坦ニシテ排水部ニ淺シ</p>	<p>注 水 路 ノ 状 態</p> <p>山間ヨリ湧出スル水ハ一注水路ニヨリテ池ニ入ル</p>	<p>排 水 路 ノ 状 態</p> <p>田圃ニ排出スベキ水路一アリ</p>	<p>湧 水 ノ 有 無</p> <p>ナシ</p>	<p>水 温</p> <p>温水</p>	<p>汎 濫 乾 涸 ノ 有 無</p> <p>ナシ</p>	<p>發 生 水 草 ノ 種 類 多 寡</p> <p>比較的發展少ナシ</p>	<p>棲 息 魚 族</p> <p>鯉、鰍</p>	<p>從 來 養 魚 ノ 有 無</p> <p>大正四年鯉兒三百五十尾ヲ放養セリ</p>	<p>自 然 餌 料 ノ 有 無</p> <p>〔ヨコノミ〕ノ蕃殖多シ</p>	<p>捕 獲 ノ 便 否</p> <p>池積狹小ナルヲ以テ甚ダ便ナリ</p>	<p>配 布 申 請 尾 數</p> <p>一、〇〇〇</p>	<p>摘 要</p> <p>〔池積狹隘ナルヲ以テ多數鯉兒ノ放養ハ得ナシト認ム〕</p>	<p>管 理 人 住 所 氏 名</p> <p>〔山本郡響村仁鮎 金野兵助〕</p>
---	--	---	--	---	----------------------------	----------------------	--------------------------------	--	---------------------------	--	---	--	---------------------------------	---	--

<p>池 水</p> <p>水色清濁ノ模様</p> <p>稍々褐色ヲ帶ブ</p>		<p>沼 底 質 池 底 ノ 状 態</p> <p>平坦ニシテ泥土深シ</p>	<p>注 水 路 ノ 状 態</p> <p>最モ上位ノモノハ澤水ノ注入ヲ受ケ下段ノモノ二個ハ立樋ニヨリテ溜池ヨリ注入ス</p>	<p>排 水 路 ノ 状 態</p> <p>各立樋一個ノ設ケアリ</p>	<p>湧 水 ノ 有 無</p> <p>ナシ</p>	<p>水 温</p> <p>温水</p>	<p>汎 濫 乾 涸 ノ 有 無</p> <p>ナシ</p>	<p>發 生 水 草 ノ 種 類 多 寡</p> <p>ナシ</p>	<p>棲 息 魚 族</p> <p>鮒、鰍</p>	<p>從 來 養 魚 ノ 有 無</p> <p>從來ヨリ養鯉ヲ行ヘリ</p>	<p>自 然 餌 料 ノ 有 無</p> <p>〔ヨコノミ〕蝦多シ</p>	<p>捕 獲 ノ 便 否</p> <p>落水捕獲スルコトヲ得</p>	<p>配 布 申 請 尾 數</p> <p>一、〇〇〇</p>	<p>摘 要</p> <p>〔天然餌料豊富ニシテ以前放養ノモノハ四ケ年ヲ經過セル鯉ノ体長二尺餘ニ達セリト鰍ノ飼養ニモ適スルモノト認ム〕</p>	<p>管 理 人 住 所 氏 名</p> <p>〔山本郡鶴川村鶴川 三浦胖〕</p>
--	--	---	---	--------------------------------------	----------------------------	----------------------	--------------------------------	------------------------------------	---------------------------	--	---------------------------------------	------------------------------------	---------------------------------	---	--

注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	水温	汎濫乾涸ノ有無	發生水草ノ種類多寡	棲息魚族	從來養魚ノ有無	自然餌料ノ有無	捕獲ノ便否	配布申請尾數	摘要	管理人住所氏名	池沼所在地	官私有別	水面積	水深	水色清濁ノ模様	底質池底ノ状態	注水路ノ状態	排水路ノ状態	湧水ノ有無	汎濫乾涸ノ有無	
注入路ニケアリ	沈樋一個	ナシ	温水	ナシ	沼畔ニ少シク林アリ	鯉及雜魚	十年前以前鯉兒放養セルコトアリ成績良好	蝦虫類稍々多シ	落水捕獲ノ便アリ	一〇、〇〇〇	南方ハ羽州街道ニ沿ヒ三方ハ人家ヲ以テ周圍セラレ餌料ハ多量ノ様ナレバ千二百尾位ノ放養ハ支障ナカルベシ	仙北郡荒川村上淀川 高橋熊藏	荒川村上淀川字野山田	官有地	一町歩	冬季九尺 夏季四尺	濁色	底質泥土ニシテ深シ	渾水相集マリテ流下ス	立樋一個アリ	ナシ	ナシ	ナシ
水	汎濫乾涸ノ有無	温水	底ニハ雜藻類ノ發生稍々多シ	發生水草ノ種類多寡	鯉、鯽、鰱	以前鯉放養セルコトアリ成績良好ナリシト	小蝦多少存シ	落水捕獲ノ便アリ	一、五〇〇尾放養スルヲ可ト認ム	北秋田郡澤口村脇神字堂ヶ岱 近藤米吉	脇神字石ノ卷岱大堤	官有地(區劃漁業免許地)	二十五町歩(夏季ハ二十町歩)	最深八尺	稍々清澄ニ近シ	大部分ハ腐植土ニシテ北方少許ノ所ハ砂質ナリ	堤ノ上段ハ澤ニシテ上流ニケノ溜池ノ水ヲ台シテ堤ニ注ゲ排水用立樋二個外ニ非常水路一アリ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

漁 獲 統 計

態	配布申請尾數	摘要
發生水草ノ種類多寡 專菜、菱其他雜草	二〇、〇〇〇	堂ヶ岱部落民ノ共同事業ニシテ堤ノ狀況最モ養鯉ニ適シ年々二萬尾内外ヲ繼續放養シナバ一大生産ヲ擧ゲ得ベキ好適地ト認ム
棲息魚族 鯉、鯽、鰱、ウグイ、最鮮多シ		
從來養魚ノ有無 鯉放養セルコトアリ現今棲息セルハ之レガ蕃殖セルモノナリ		
自然餌料ノ有無 小蝦最モ多シ		
捕獲ノ便否 曳網ノ便アリ		

何等ノ事業ヲ問ハズ斯業ノ改良發達ヲ圖ラントセバ之レガ資料ヲ統計ニ待タザルベカラザルナリ而シテ統計ハ可及的最近ノモノヲ知ルハ極メテ肝要ナルハ言ヲ勿ヒズ殊ニ水産業ノ如キ年ニ依リ其ノ漁獲豊凶ノ著シキ差異アルモノニアリテハ一層其ノ必要ナルヲ認メ本場ハ茲ニ大正六年一月ヨリ三月ニ至ル期間ニ於テ場員ヲ各漁村ニ派シ大正五年ノ縣下海面漁獲ヲ實地調査シタリ

大正五年自十二月海面漁獲高調

(大正六年三月調)

由利郡	河邊郡	南秋田郡	山本郡	計
大羽 三六、七五六	大羽 五、四六〇	大羽 四三、八二三	大羽 三五、三六八	大羽 一二一、四〇七
鮎 二、〇八〇	鮎 四、〇三〇	鮎 五八、五九五	鮎 五二、二九五	鮎 一一七、〇〇〇
鮎 一〇、〇五〇	鮎 一	鮎 六二、七〇〇	鮎 七、三〇〇	鮎 八〇、〇五〇

鯰	か	鯰	い	赤	油	く	鯰	鯰	う	白	し	赤	赤	小	鯰	そ
す		し	な			ろ			み	ん	ん	あ	あ	鯰	え	
鮫		な	ぎ	鮎	目	ら			た	じ	じ	り	ら	鯰		
		ぎ							な	ょう	ょう					

		一〇〇	一五〇	二四〇				五〇〇						三二四	一、二九〇	
--	--	-----	-----	-----	--	--	--	-----	--	--	--	--	--	-----	-------	--

															五〇	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	--

		一二〇	三四五		六〇〇	六二〇	六五〇	二六〇	一、〇九〇	一、二三〇	一、二六〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、二〇〇	一六〇	三、一五〇
--	--	-----	-----	--	-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------

六〇			一五〇				二二〇	八〇〇						一〇〇	二〇〇	
----	--	--	-----	--	--	--	-----	-----	--	--	--	--	--	-----	-----	--

六〇	一〇〇	二七〇	三四五	三九〇	六〇〇	六二〇	六五〇	七二〇	一、〇六〇	一、〇九〇	一、二三〇	一、二六〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六一四	一、七〇〇	三、一五〇
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

鯰	鯰	金	鯖	め	甘	鰯	鼠	鯰	鯰	鯰	鯰	鯰	鯰	鯰	鯰	鯰
		頭		く												
		魚		ら												
				う												
				な												
				ぎ												

二六〇	九〇	二、二四〇	五、〇七〇	一〇、〇八〇	六、七六〇	一、七一〇		三、一八〇	五、四四〇	一〇、五四〇	一二、九五〇	二二、九三〇	六、〇一〇	九、八〇〇	二二、九一〇	一三、四七九	二〇、五二〇
-----	----	-------	-------	--------	-------	-------	--	-------	-------	--------	--------	--------	-------	-------	--------	--------	--------

		六〇〇	五〇		四〇〇			七〇〇		九〇〇	八〇〇		八五〇	四、七〇〇			八、一八〇
--	--	-----	----	--	-----	--	--	-----	--	-----	-----	--	-----	-------	--	--	-------

二、八〇〇	四、〇九五	七六〇	一、五二〇	一六五	三、一七〇	九、五〇〇		一、六〇〇	七、八五〇	八、七二五	四、七二〇	三、四五〇	六、一七〇	一〇、一五	三、八〇〇	八、六八〇	九、七一〇	一二、〇七〇
-------	-------	-----	-------	-----	-------	-------	--	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

一五四	一六五	一、四九〇	一、三〇〇		二〇〇			一二、一五〇	二、四五〇	二、三五五	一、九一〇	一、〇五〇	五五〇	六、四〇〇	七、九〇〇	二、二六〇	一六、六一五	四、五二〇
-----	-----	-------	-------	--	-----	--	--	--------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------	-------	--------	-------

三、二一四	四、三五〇	五、〇九〇	七、九四〇	一〇、二四五	一〇、五三〇	一一、二一〇		一三、七五〇	一四、一八〇	一六、五二〇	一八、〇七〇	一八、二五〇	二〇、六五〇	二二、三七五	二六、二〇〇	三三、八五〇	三九、八〇四	四五、二九〇
-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------



合	雜	雜	琴
計	魚	藻	蟲
二二七、七五九	一、九五二	六〇	
二七、〇七〇	九〇		
三三六、一六一	一、四五二	四、五三五	
一六五、七九四	七六〇	一、八三二	
七四六、七八四	四、二五三	四、五九五	一、八三二

鮑	さ	か	は	い	ば	や	た	す	ゑ	か	な	い	ゑ	て	わ	あ	の
え	き	り	ま	か	い	い	め	つ	び	に	こ	か	ご	さ	め	め	ら
二、二二二	七〇〇	一八〇	七〇	八六〇	一、四六〇	九三五	七、九〇〇	三、七七〇				八三〇					三八二
					二六〇												
二一、五六〇	一、四五五	一〇五	四一〇	三、五〇〇	一、七〇〇			二四六	一〇、九八〇	五、四四五	三、五九〇	二、四六〇	七二〇				
一、二七〇				三、〇五〇	二〇〇	四八〇				二〇	四〇	二八〇					
二四、九四二	一、四五五	八〇五	四一〇	七、四一〇	三、六二〇	一、四一五	七、九〇〇	三、七七〇	二四六	一〇、九八〇	一〇〇	二、四六〇	一、三八二				

大正六年六月十一日印刷  
大正六年六月十五日發行

# 秋田縣水產試驗場

秋田市大町二丁目廿三番地

中村政五郎

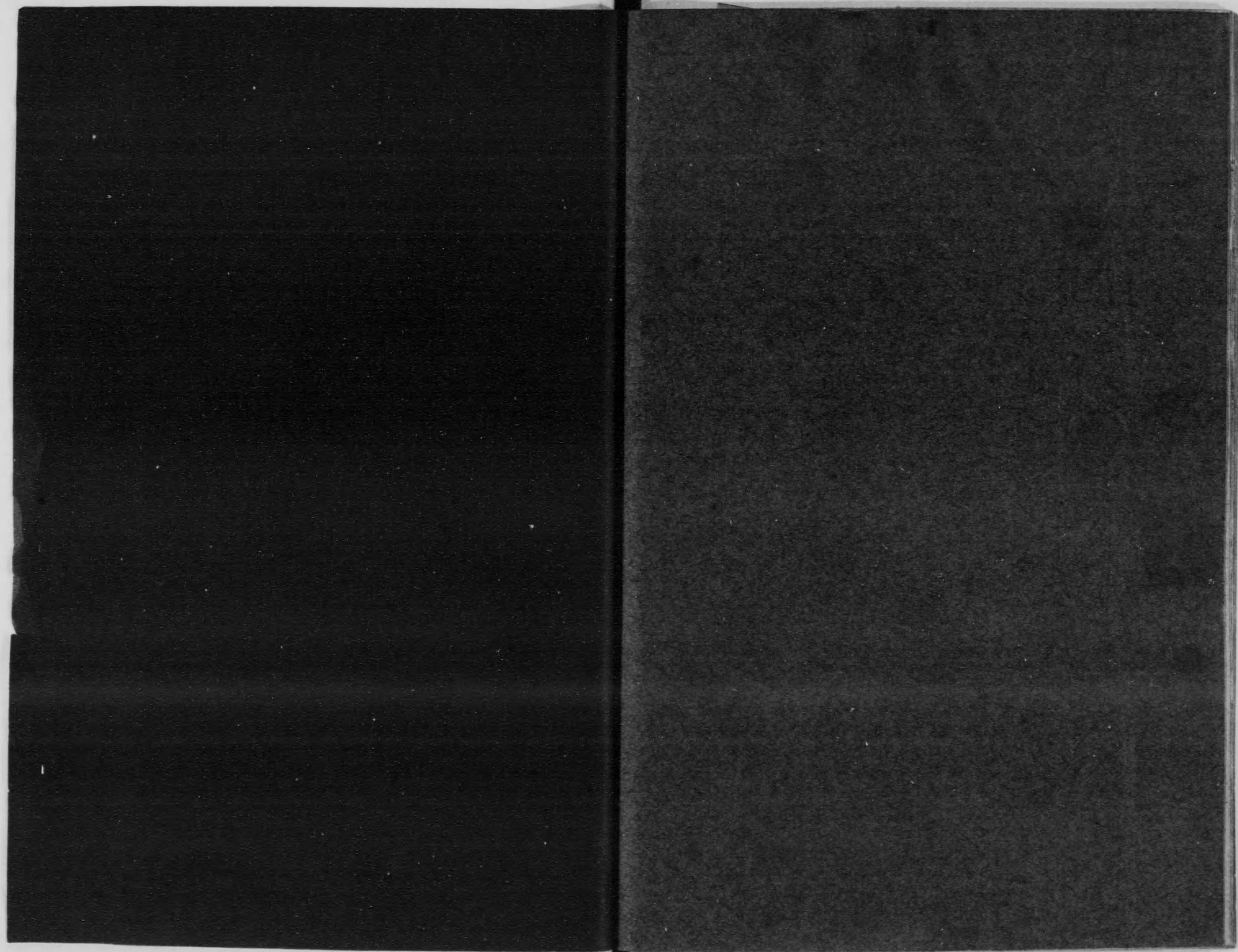
秋田市茶町菊之丁一番地

秋田社明治活版所

(電話一〇八番)

印刷所

印刷者



終